

# 令和3年度 県立病院を良くする会 次第

日 時 令和4年2月28日（月）  
午後3時30分から  
場 所 WEB会議開催

## 1 開 会

## 2 議 事

- (1) 会長・副会長の選任について
- (2) 徳島県病院事業経営計画の取組状況について
- (3) 各県立病院の取組状況について
  - ・中央病院
  - ・三好病院
  - ・海部病院
- (4) 公立病院経営強化プラン策定に向けて
- (5) 意見交換

## 3 閉 会

### 【配付資料】

- ・資料1 徳島県病院事業経営計画の取組状況
- ・資料2 徳島県病院事業経営計画の取組状況の評価について
- ・資料3 各県立病院の取組状況について
- ・資料4 公立病院経営強化プラン策定に向けて

# 徳島県病院事業 経営計画の取組状況

令和4年2月28日  
県立病院を良くする会資料

# 1 「グループ力の強化」に向けた取組

## (1) 広域的な救急医療提供体制の整備

**新計画 (p57)**  
**「危機管理能力の向上」に  
向けた取組**



(資料2 p2, 8)

### ◆ 「ドクターヘリ」の運行

「助かる命を助ける」べく、  
県内のみならず「関西広域連合」管内をはじめ、  
県域を越えて運行 平成24年10月～

・ 令和2年度の出動件数

**469件**

・ H24.10～R3.3末までの出動件数

**3,683件 (1日平均約1.2件)**

### ◆ 「ホスピタルカー」の導入

平成29年10月から導入

→ 令和2年11月から医師が現場に向かう  
「ドクターカー」として機能強化

・ 令和2年度実績

**87件 (施設間搬送72件, 現場出動15件)**



## (2)医師の確保と指導医・専門医の養成

(資料2 p2)

新計画 (p53)

「人材確保・働き方改革」に  
向けた取組

### ◆臨床研修指導医の養成

高度な知識や技術・経験を持つ指導医や専門医を養成し、  
次の世代の研修医を育てる **医師育成サイクル**を構築

主要指標	H26年度 (計画策定時)	R2年度 目標値	R2年度 実績値	R7年度 目標値	備考
臨床研修指導医数 【県立3病院全体】	96名	120名	99名	120名	・ 中央病院: 82名 ・ 三好病院: 14名 ・ 海部病院: 3名 (年度末実績)



### (3)臨床研修の充実

(資料2 p3)

新計画 (p53)

「人材確保・働き方改革」に向けた取組

#### ◆ 初期・後期臨床研修医の育成

主要指標	H26年度 (計画策定時)	R2年度 目標値	R2年度 実績値	R7年度 目標値	備考
初期・後期臨床研修医数 【県立3病院全体】	39名	55名	54名	60名	・ 中央病院: 36名 ・ 三好病院: 18名 ・ 海部病院: 16名 (病院間の重複あり)

#### ◆ 新築移転した海部病院内に「地域医療研究センター」を充実整備

(地域医療を担う「若手医師」の育成拠点)

- ・ 例年, 100名程度の徳島大学医学部生を受入れ
- ・ 令和2年度は, 新型コロナ対策のため受入を制限



## (4)スペシャリストの養成

(資料2 p3)

**新計画 (p53~54)**  
**「人材確保・働き方改革」に向けた取組**

### ◆「専門・認定看護師」の計画的養成

令和3年5月現在の資格取得者数

- ・ 専門看護師 **3名** (がん看護, 老人看護)
- ・ 認定看護師 **37名** (17分野) \*今年度2名(2分野)が認定審査受験予定

\* 救急看護, 感染管理, 皮膚・排泄ケア, 緩和ケア, 集中ケア, 糖尿病看護, がん化学療法看護, がん性疼痛看護, がん放射線療法, 小児救急看護, 脳卒中リハビリテーション, 摂食・嚥下障害, 認知症看護, 手術看護, 慢性呼吸器疾患看護, 慢性心不全看護, 精神科

## (5)医師・看護師等の「勤務環境」の改善

(資料2 p4)

### ◆医師の負担軽減のため「医師事務作業補助者(医療秘書)」を充実

主要指標	H26年度 (計画策定時)	R2年度 目標値	R2年度 実績値	R7年度 目標値	備考
医師事務作業補助者数 【県立3病院全体】	40名	50名	54名	55名	・ 中央病院: 35名 ・ 三好病院: 14名 ・ 海部病院: 5名

### ◆院内保育所(中央病院 やまもも保育園)の運営

- ・ **定員80名** (うち徳大病院枠10名)
- ・ 年中無休 (夜間保育を実施)



## (6)危機管理への対応力の強化

新計画 (p57)  
「危機管理能力の向上」に  
向けた取組

- ◆令和3年度徳島県総合防災訓練 (資料2 p4)  
・中央病院が参加し、**令和3年9月1日実施**

### ◆DMATの育成

主要指標	H26年度 (計画策定時)	R2年度 目標値	R2年度 実績値	R7年度 目標値	備考
DMAT数 【県立3病院全体】	7チーム	10チーム	8チーム	12 チーム	・ 中央病院: 4チーム ・ 三好病院: 1チーム ・ 海部病院: 3チーム

### ◆災害に備えたライフラインの確保

災害時における「水供給の多重化」と  
平時における「水道料金の削減」を両立させるため、  
三好病院において、**井水利用に係る施設を整備**

## (8)医療器械等の共同購入の推進

(資料2 p5)

新計画 (p60)  
「医療の質の向上」に  
向けた取組

主要指標	H26年度 (計画策定時)	R2年度 目標値	R2年度 実績値	R7年度 目標値
医薬品の採用品目数 【県立3病院全体】	1,869品目	1,000 品目以下	1,714品目	—
医療材料の共同購用品目数 【県立3病院全体】	168品目	250品目	258品目	300品目

### 今後の取組

「3病院は3つで1つ」との理念のもと、それぞれの品目毎に採用数と費用対効果等を再検証し、「同種同効医薬品の統合」「診療材料の標準化」を推進する。

※令和2年度の県立三病院における共同購入258品目の削減実績  
・診療材料 年度換算で**約2億1,300万円** (定価と購入価格の差)

## 2 「医療機能の分化と連携の実現」に向けた取組

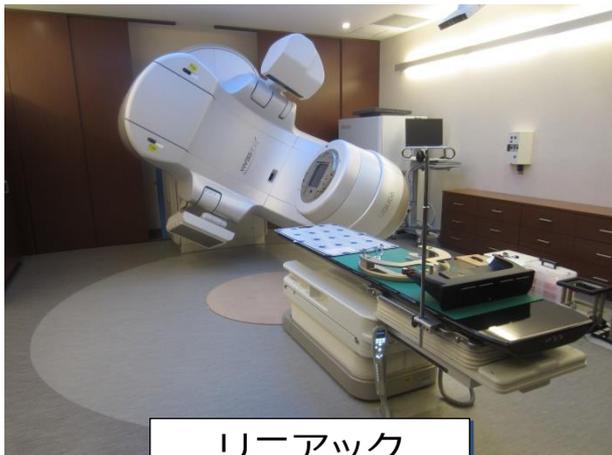
### (1) 高度先進医療・臨床研究の充実

(資料2 p6)

#### ◆ 高度医療機器の整備による先進医療の提供

- ・ 中央病院では、リニアック (R3更新) や PET-CT、ダ・ヴィンチ (R2更新) による高精度な治療や検査を推進
- ・ 三好病院では、リニアック により、質の高い「がん治療」を推進
- ・ 海部病院では、マルチスライスCT を導入

新計画 (p60)  
「医療の質の向上」に  
向けた取組



リニアック



ダ・ヴィンチ



## (2)地域医療連携の充実

(資料2 p7)

新計画 (p55)  
「地域との連携」に  
向けた取組

### ◆紹介・逆紹介による連携の推進

中央病院では、

**逆紹介率 224%**

**(紹介率 96%)** と、

全国トップクラスであり、  
着実に地域の医療機関との  
役割分担を推進

主要指標		H26年度 (計画策定時)	R2年度 目標値	R2年度 実績値	R7年度 目標値
紹介率	中央病院	80%	90%	96%	93%
	三好病院	40%	60%	60%	65%
	海部病院	29%	40%	19%	30%
逆紹介率	中央病院	139%	180%	224%	200%
	三好病院	97%	120%	98%	100%
	海部病院	33%	40%	48%	50%

### ◆訪問看護・訪問診療の推進

海部病院では、

平成21年度から訪問診療・訪問看護を実施

・令和2年度実績

**訪問診療 322件**

**訪問看護 800件**



# 3 「医療の質の向上」に向けた取組

## (1) チーム医療の推進

(資料2 p10)

新計画 (p60~61)  
「医療の質の向上」に  
向けた取組

### ◆高い専門性を有する「診療チーム」による的確な医療の提供

- ・ 求められる医療需要に、的確かつ迅速に対応するため、  
**「緩和ケアチーム」「糖尿病チーム」「口腔ケアチーム」**など  
多職種による、チーム医療を推進
- ・ チーム連携により、回復力・予防力の向上に貢献する  
薬剤管理指導を実施

主要指標		H26年度 (計画策定時)	R2年度 目標値	R2年度 実績値	R7年度 目標値
薬剤管理 指導件数	中央病院	11,961件	16,000件	15,167件	17,000件
	三好病院	3,841件	4,000件	2,573件	3,500件
	海部病院	1,905件	1,900件	889件	1,800件

# 4 「経営の効率化」に向けた取組

## (1)急性期医療の重点化

(資料2 p13)

新計画 (p60)  
「経営の効率化」に  
向けた取組

### ◆入院患者数，在院日数の適正管理

急性期医療の重点化を図るため、適切な平均在院日数と病床利用率の管理に取り組むとともに、新規入院患者の受け入れを促進する。

主要指標		H26年度 (計画策定時)	R2年度 目標値	R2年度 実績値	R7年度 目標値	説明
平均在院 日数	中央病院	9.7日	9.6日	10.3日	9.6日	精神病床を除く
	三好病院	16.1日	13.5日	14.3日	13.5日	緩和ケア病床を除く
1日平均 新規入院 患者数	中央病院	30.9名	33名	27.2名	33名	精神病床を除く
	三好病院	8.2名	10名	8.3名	10.5名	緩和ケア病床を除く

# (1)後発医薬品の採用

(資料2 p15)

**新計画 (p60)**  
**「経営の効率化」に向けた取組**

## ◆県立3病院で使用する後発医薬品の数量シェア

県立3病院では、後発医薬品の数量シェアが、国が示す「令和2年9月までに80%以上」の目標を既に達成。

・令和2年度実績

**中央病院 90.2% 三好病院 93.5% 海部病院 94.9%**

## ◆外来処方における新たな取組

県内有数の外来処方数量を誇る県立病院として、**調剤薬局における処方数量の増加に向け、**

「薬品名」ではなく、「成分名」で処方を行う  
**「一般名処方」**を、

平成24年4月から実施している海部病院に続き、  
 平成29年11月から中央病院で、  
 平成29年12月から三好病院で実施

・令和3年3月現在 一般名処方品目数

中央病院 149品目  
 三好病院 85品目  
 海部病院 71品目

お薬は選べる時代。  
 だからこそ、ジェネリック医薬品。

2012年4月から、ジェネリック医薬品を更に普及しやすくなるために  
 処方せんの様式が新しくなりました。  
 医師・薬剤師の先生と相談して、ジェネリック医薬品を選んでみましょう。  
 まずは、ご自分の処方せんを確認してみましょう!

**新!**  
 処方せん  
 様式の概要

一般名で記述されれば、  
 ジェネリック医薬品も選択できます。  
※一部は医師の指示に従って、ジェネリック医薬品を選択してください。

ジェネリックなら  
 消費代が、  
 安くなります!

「家庭不可用」に「V」や「M」  
 がなく、「(服用法を)」に書  
 きがなければ、ジェネリック医  
 薬品も選択できます。  
※処方箋に記載されている薬名が  
 処方されている薬名です。

詳しくは、医師・薬剤師にご相談ください。

**ジェネリック医薬品ってどんなお薬?**

- 新薬(先発医薬品)と同じ有効成分で、効き目・品質・安全性が同等なお薬です。
- 新薬より薬価が安く買えられ、日本の医療費削減にも貢献します。
- ジェネリック医薬品の普及は、国民負担軽減の維持に役立ちます。

監修：厚生労働省

**JGA** ジェネリック医薬品の詳しい情報はこちらのサイトへ  
<http://www.jga.gr.jp> スケートマークは <http://mark.jga.gr.jp>

## 感染症対策の充実

### ◆ 医療機器の整備

新型コロナウイルス感染症患者の急速な増加にも対応できるよう、医療機器を整備

- ・人工呼吸器  
中央病院：5台購入，2台リース  
三好病院：4台購入  
海部病院：3台購入
- ・生体情報モニター  
中央病院：24台購入  
三好病院：8台購入  
海部病院：2台購入 など

### ◆ 検査機器の整備

- ・PCR検査機器  
中央病院：令和2年7月導入，運用開始  
三好病院・海部病院：令和2年12月末導入  
令和3年1月運用開始

新計画 (p57)

「危機管理能力の向上」に  
向けた取組

※医療機器の導入による  
受入れ体制強化



人工呼吸器

## 救命救急医療の充実強化

### ◆中央病院 E R 棟の整備

・次の4つの機能を付加・統合した E R 棟を整備し、本館棟と連携を図ることで、救急医療等の体制を充実強化

#### ① 救命救急機能

「救命救急センター」としての機能向上を図るため、**感染症外来をはじめ救急医療**を充実

#### ② 災害対応機能

発災時に「**災害対策本部**」や「**DMA T 活動拠点本部**」の役割を担い、危機事象に速やかに対応

#### ③ 人材育成機能

医療技術の習得を図るための施設「**スキルスラボ**」による医療人材の育成

#### ④ 地域医療支援機能

「**5 G ネットワーク**」による遠隔医療で地域医療を支援

新計画 (p57)

「危機管理能力の向上」に向けた取組

※令和4年末 E R 棟の竣工を目標に追加



## ICT（情報通信技術）の活用

### ◆ 5Gを活用した遠隔医療の推進

- ・ 令和3年7月27日に中央病院・海部病院間において

**5Gによる糖尿病遠隔診療，内視鏡遠隔診断支援**を開始

- ・ 令和3年9月9日、12月16日に中央病院・三好病院間において
- 8K映像伝送によるローカル5Gの実証事業**を推進

新計画（p62）

「医療の質の向上」に向けた取組

※地域医療の課題解決に向け5Gの実装を推進



内視鏡遠隔診断支援



糖尿病遠隔診療



8K映像伝送による  
ローカル5G実証事業

## ◆令和3年8月

「徳島医療コンソーシアム推進協定」に  
新たに2病院が参加

＜連携を図る公立・公的15病院＞

- ・徳島県立病院（中央病院・三好病院・海部病院）
- ・徳島大学病院
- ・徳島県鳴門病院
- ・三野病院
- ・上那賀病院
- ・美波病院
- ・海南病院
- ・半田病院
- ・徳島赤十字病院
- ・吉野川医療センター
- ・阿南医療センター
- ・徳島市民病院（R3参加）
- ・勝浦病院（R3参加）

新計画（p55）  
「地域との連携」に  
向けた取組

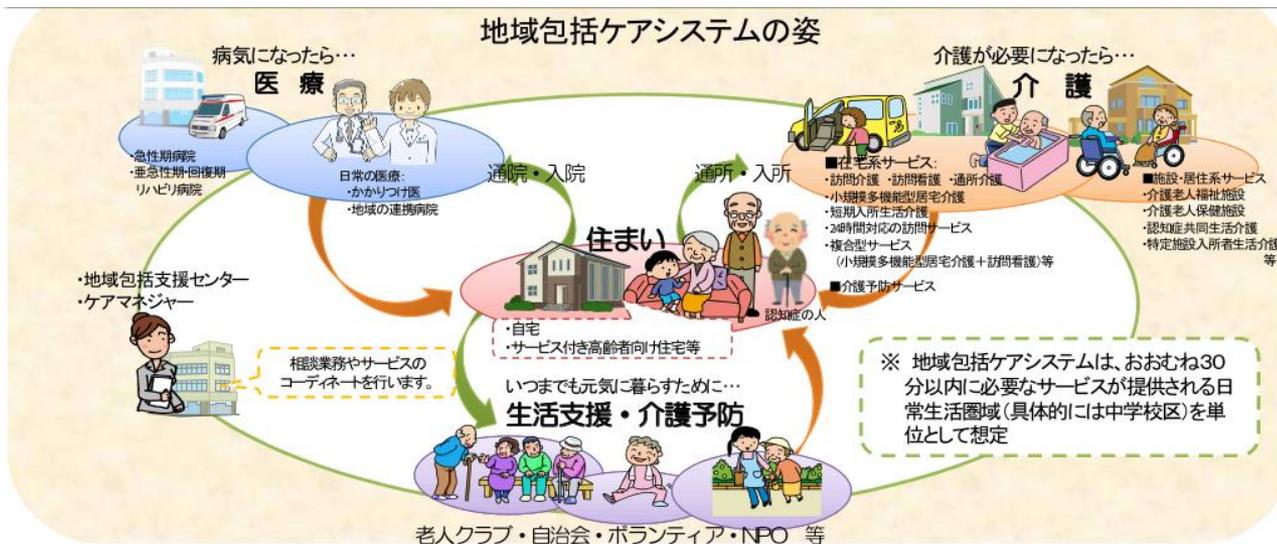


# 地域に不足する医療機能への取組

新計画 (p55)  
「地域との連携」に  
向けた取組

## ◆地域包括ケアシステムの構築

- ・ 令和元年7月、海部病院において、4階病棟の「地域包括ケア病棟」を開始
- ・ 三好病院において、回復期病床として、地域包括ケア病棟の整備を検討



厚生労働省HPより

徳島県病院事業経営計画の取組状況の評価について

1 達成状況

施策数 (再掲を除く)	令和2年度の達成状況		
	達成 ○	概ね達成 △	未達成 △
32件	24件 (75%)	8件 (25%)	0件 (0%)

自己評価基準

- ・【達成：○ (取組目標を達成)】
- ・【概ね達成：△ (概ね取組目標の8割以上を達成)】
- ・【未達成：△ (達成度が取組目標の8割未満)】

2 「経営基盤の強化策」の自己評価一覧

1 「グループ力の強化」に向けた取組			
☆ (1) 広域的な救急医療支援体制の整備	○:p. 2	☆ (5) 医師、看護師等の勤務環境の改善・充実	○:p. 4
☆ (2) 医師の確保と指導医・専門医の養成	○:p. 2	☆ (6) 危機管理への対応力の強化	○:p. 4
☆ (3) 臨床研修の充実	○:p. 3	(7) ICT (情報通信技術) の活用	○:p. 5
☆ (4) スペシャリストの養成	○:p. 3	☆ (8) 医療器械等の共同購入の推進	○:p. 5
2 「医療機能の分化と連携の実現」に向けた取組			
☆ (1) 高度先進医療・臨床研究の充実	○:p. 6	(5) 地域医療機関・介護施設等に対する支援の充実	○:p. 8
☆ (2) 地域医療連携の充実	○:p. 7	(6) 精神科医療ニーズの高まりに対する対応	○:p. 9
(3) ホスピタルカーの運行	○:p. 8	(7) 住民に開かれた病院運営	○:p. 9
(4) 地域に不足する機能への取組の検討	○:p. 8		
3 「医療の質の向上」に向けた取組			
☆ (1) チーム医療の推進	○:p. 10	(5) 患者・職員の満足度の向上	○:p. 11
(2) 病院機能評価の継続受審	○:p. 10	(6) 患者さんの信頼を得る医療の推進	○:p. 11
(3) 医療安全対策の推進	○:p. 10	(7) 広報活動の充実	○:p. 11
(4) 院内感染対策の推進	○:p. 10	(8) 快適な病院利用環境の整備	○:p. 12
4 「経営の効率化」に向けた取組			
・収入確保の強化			
☆ (1) 急性期医療の重点化	○:p. 13	(4) 未収金の発生防止と回収促進	○:p. 14
(2) DPC分析による経営戦略の策定	○:p. 13	(5) 医師の確保と指導医・専門医の育成 (再掲)	- p. 2
(3) 診療報酬制度への戦略的な取組	○:p. 14		
・経費削減の強化と効率化の推進			
☆ (1) 後発医薬品の採用	○:p. 15	(4) 医療情報システムの統一化及び総務事務のICT化	○:p. 15
(2) 医療器械等の共同購入の推進 (再掲)	- p. 5	(5) 事務部門のスリム化と強化	○:p. 16
(3) 効率的な委託業務の推進	○:p. 15	(6) 病院資産の有効活用	○:p. 16

## 各施策の自己評価一覧表

### 1 「グループ力の強化」に向けた取組

経営計画の概要 【令和2年度実績値の（）書きは、令和元年度からの増減数】					計画達成に向けた取組の概要	自己評価
(1)	<b>広域的な救急医療支援体制の整備</b> ・ドクターヘリ、ホスピタルカーの活用				・ドクターヘリ (H26年度:414件、R2年度:469件、13.3%増加)、ホスピタルカー (平成29年7月より運行開始し、施設間搬送等を実施。R2年度:72件) の体制整備を整え、さらに令和2年11月から救急隊の要請に基づき現場出動するドクターカーの運行 (R2年度:15件) を開始した。	◎ 達成
	<b>医師の確保と指導医・専門医の養成</b> ・県立病院間での効果的な人材活用 (医師のローテーション勤務) ・地域枠医師の積極的な受け入れ ・中央診療部門医師 (麻酔科医・放射線科医・病理医) の育成 ・新たな専門医制度への対応					
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	R元年度実績値	R2年度実績値	R2年度目標値	
	○臨床研修指導医数【県立3病院全体】	96名	99名	99名	120名	

経営計画の概要 【令和2年度実績値の（）書きは、令和元年度からの増減数】					計画達成に向けた取組の概要	自己評価	
(3)	<b>臨床研修の充実</b> ・ 特色ある後期研修の実施 ・ 海部病院の「地域医療研究センター」の整備				・ 臨床研修病院として、臨床研修医を54名受け入れて、臨床研修の充実を図った。  ・ 平成30年4月開始の「新専門医制度（19診療科）」への対応状況 「新専門医プログラム」 中央病院：17診療科（基幹施設・連携施設） 三好病院：10診療科（連携施設） 海部病院：5診療科（基幹施設・連携施設）  ・ 海部病院は、診療や研修に従事する医師や実習を行う医学生等の環境改善を図るため、宿泊機能や研修支援機能等を備えた「地域医療研究センター」の整備を行った。 （徳島大学医学部生の学外臨床実習の場として、医学部5年生が実習を実施。R2年度：約5名）	○ 概ね達成	
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	R元年度実績値	R2年度実績値			R2年度目標値
	○初期・後期臨床研修医数【県立3病院全体】	39名	52名	54名(2名)			55名
(4)	<b>スペシャリストの養成</b> ・ 高度化、専門化する医療への対応に向けた研修の実施 ・ 高度な専門的知識、技能、資格の取得と組織内共有 ・ 看護職確保への取り組みを展開				・ 医師を国際学会等に派遣し、特に高度な専門的知識や技能を修得させた。(R2年度:海外0名)  ・ 専門看護師育成(令和3年5月時点の資格取得者数:3名)  ・ 認定看護師育成(令和3年5月時点の資格取得者数:37名, 2名認定審査受験予定)  ・ 学会、研修会に参加した医療職員や認定看護師等による院内報告会・研修会を通じて、知識・技術の共有を図り、医療現場の質の向上に努めた。	○ 概ね達成	
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	R元年度実績値	R2年度実績値			R2年度目標値
	○高度医療研修医師派遣者数【県立3病院全体】	4名	24名	24名			14名
	○専門・認定看護師数【県立3病院全体】	17名	37名	40名(3名)			35名
○看護学生実習指導者数(看護協会実習指導者講習会修了者数)【中央病院】	24名	27名	18名(△9名)	34名			

経営計画の概要 【令和2年度実績値の（）書きは、令和元年度からの増減数】					計画達成に向けた取組の概要	自己評価	
(5)	<b>医師、看護師等の勤務環境の改善・充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師事務作業補助者等の効果的な配置</li> <li>・院内保育所を運営等、働きやすい職場環境の整備</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民への医療サービスの向上につながる医師等の業務の負担軽減を図るため、事務補助者（医師事務作業補助者等）54名について、効果的な配置を行った。 （中央病院35名、三好病院14名、海部病院5名）</li> <li>・中央病院の院内保育所（定員80名（内徳大10名））は、原則年中無休で運営しており、病児保育への対応や夜間保育、半日保育、臨時保育も実施している。</li> </ul>	◎ 達成	
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	R元年度 実績値	R2年度 実績値			R2年度 目標値
	○医師事務作業補助者数 【県立3病院全体】	40名	52名	54名 (2名)			50名
(6)	<b>危機管理への対応力の強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時の患者受入れ体制の強化</li> <li>・災害対応訓練の実施等、対応能力の強化</li> <li>・DMATの育成、災害用医療資機材等の整備</li> <li>・災害対策マニュアル、BCPの整備等、危機管理体制の構築</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・各病院において、南海トラフ巨大地震を想定した多数傷病者受入訓練や衛星電話等による情報伝達訓練を実施し、災害時に備えた救急救護体制の強化を図った。更に、広域災害にも対応できるよう、総合メディカルゾーン基本構想に基づく徳島大学病院と初となる合同実働訓練や市町村、自衛隊等関係機関との連携訓練を実施し、災害医療体制における連携強化を図った。</li> <li>・DMATとして必要な知識を有する専門職員を養成し、災害拠点病院として、発災直後の災害急性期における医療活動を担えるよう、専門職員の養成に努めた。 （中央病院4チーム、三好病院1チーム、海部病院3チーム）</li> <li>・災害用備蓄食料については、県立3病院による共同購入を実施し、計画的な整備に努めた。</li> </ul>	○ 概ね達成	
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	R元年度 実績値	R2年度 実績値			R2年度 目標値
	○DMAT（災害派遣医療チーム）数 【県立3病院全体】	7チーム	9チーム	8チーム (△1チーム)			10チーム

経営計画の概要 【令和2年度実績値の（）書きは、令和元年度からの増減数】					計画達成に向けた取組の概要	自己評価	
(7)	ICT（情報通信技術）の活用				<p>・ 県立3病院で医療情報を共有し、システムの相互利用を可能とするとともに、総合メディカルゾーン本部の徳島大学病院や鳴門病院をはじめとする各圏域の地域医療機関との連携強化を更に進めるため、「病院総合情報システム」の導入を進め、平成30年10月28日から新システムが本格稼働した。</p> <p>・ 海部病院において、山間部等の救急搬送患者の状況を遠隔地医師が迅速に把握可能な「海部病院遠隔診療支援システム（Kサポートシステム）」を運用した。</p> <p>・ 県南部の海部・那賀地域の公立病院が一体となって取り組む「海部・那賀モデル」の一環として、H29年度に海部病院と上那賀・美波・海南の町立3病院を結ぶテレビ会議システムを導入した。</p> <p>・ 遠隔読影については、医師不足による医師の負担軽減と医療の質の向上を目的として、H18年6月1日より、医師により県立3病院間で実施している。</p>	◎ 達成	
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	R元年度 実績値	R2年度 実績値			R2年度 目標値
	○県立3病院の医療情報システムの統一	—	—	—			※平成30年度
(8)	医療器械等の共同購入の推進				<p>・ 医薬品について、3病院の共同購入によるスケールメリットによる費用の削減を図った。 (R2削減額 薬価ベース 約5億2,000万円)</p> <p>・ 医薬品、診療材料の標準化を進めるため、平成29年度には、3病院の物品管理システムの「ネットワーク化」や「マスタ統一」など、統一的な運用を開始した。</p> <p>・ 新計画においては、さらなる共同購入品目数の増加に努め、スケールメリットを活かした購入費用の低減に取り組む。</p>	◎ 達成	
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	R元年度 実績値	R2年度 実績値			R2年度 目標値
	○医薬品の採用品目数【県立3病院全体】	1,869品目	1,740品目	1,714品目 (△26品目)			1,000品目以下 ※H30年度
	○医療材料の共同購入品目数【県立3病院全体】	168品目	227品目	258品目 (31品目)	250品目		

## 2 「医療機能の分化と連携の実現」に向けた取組

経営計画の概要 【令和2年度実績値の（）書きは、令和元年度からの増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
<p>(1) 高度先進医療・臨床研究の充実</p> <p>・高度医療機器の整備による先進医療の提供</p>	<p>・中央病院においては、リニアックやPET-CT等による高精度な治療や検査の推進に取り組んだ。 【内視鏡下手術支援ロボット：150件、MRI（単純MR：4,502件、造影MR：1,311件）、PET-CT：1,003件、256列CT・単純CT：16,816件、造影CT：5,057件、冠動脈造影CT：320件、リニアック（放射線治療装置）：2台4,912件（うち高精度放射線治療1,217件）、冠動脈疾患診断支援システム「FFR-CT解析」：100件】</p> <p>・三好病院においては、手術支援ロボットを用いて人工膝関節置換術や脊椎内視鏡手術機器を用いた脊椎手術といった最先進の手術を実施する「高度先進関節脊椎センター」を令和2年4月1日に開設するとともに、がん治療：手術・化学療法・放射線治療による質の高い治療の推進に努めた。 【MRI（単純MR：3,012件、造影MR：228件）、単純CT：8,759件、造影CT：1,087件、リニアック：848件】</p> <p>・海部病院においては、H29.5.8新病院開院からマルチスライスCT導入。 【単純CT：4,057件、造影CT：308件、MRI（単純MR：1,849件、造影MR：102件）、脳神経外科・整形外科を中心に活用】</p>	<p>◎ 達成</p>

経営計画の概要 【令和2年度実績値の（）書きは、令和元年度からの増減数】					計画達成に向けた取組の概要	自己評価	
(2)	<b>地域医療連携の充実</b> ・ 地域医療機関との役割分担、連携の推進 ・ 三好病院、海部病院における訪問診療、訪問看護等、在宅医療の推進				・ 連携医として、中央病院516名、三好病院35名、海部病院19名を登録し、地域医療連携を進めた。 ・ 中央病院の患者支援センターでは、院内外の多職種（医師・ケアマネ・看護師・MSW・薬剤師・栄養士等）と連携し、入院前から退院まで一貫した患者支援を行っている。 （紹介患者件数：16,751件） ・ 三好病院では、地域中核病院機能の取組として、つるぎ町立半田病院・三好市立三野病院と3病院間で医師の派遣等の協力体制を実施し、地域医療支援病院として、地域の医療機関等の連携に努めた。 （紹介患者件数：3,148件） ・ 海部病院では、利用者のニーズ把握と地域の医療機関、施設等との連携強化を図るとともに、紹介患者や退院患者への「訪問診療」（322件）や「訪問看護」（800件）などの在宅支援を行なうとともに、在院日数の短縮に繋げてきた。また、「海部・那賀モデル」を核とした地域の医療従事者向けの研修会を開催した。 （紹介患者件数：1,797件）	○ 概ね達成	
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	R元年度 実績値	R2年度 実績値			R2年度 目標値
	○紹介率						
	【中央病院】	79.8%	95.6%	96.1% (0.5%)			90%
	【三好病院】	40.4%	49.9%	60.4% (10.5%)			60%
	【海部病院】	28.8%	18.7%	19.4% (0.7%)			40%
○逆紹介率							
【中央病院】	138.8%	203.2%	224.1% (20.9%)	180%			
【三好病院】	96.6%	83.2%	97.7% (14.5%)	120%			
【海部病院】	33.1%	39.1%	48.2% (9.1%)	40%			

経営計画の概要 【令和2年度実績値の（）書きは、令和元年度からの増減数】		計画達成に向けた取組の概要	自己評価
(3)	<b>ホスピタルカーの運行</b> ・ホスピタルカーの配置、運用	・中央病院において、平成29年7月よりホスピタルカーの運行開始、さらに、令和2年11月よりドクターカーを運行開始し、救命率の向上を図った。（R2年度施設間搬送等：72件、ドクターカー：15件）	◎ 達成
(4)	<b>地域に不足する機能への取組の検討</b> ・地域医療構想の実現に向けた取り組み	・三好病院は、高度急性期及び急性期病床を維持するとともに、地域医療構想調整会議における議論を踏まえ、西部圏域で不足している回復期病床への一部病棟の転換について検討している。 ・海部病院は、医療圏内に「療養系の病床」がないことから、平成21年度より「訪問介護」を、平成22年度より「訪問診療」をそれぞれ開始し、平成23年度には在宅看取りを開始し、令和元年7月からは、「地域包括ケア病棟」の運用を開始し、地域の医療機関、介護施設等と連携を強化していくことで、地域住民が住み慣れた地域で、長く過ごしていただけるための取組を進めている。	◎ 達成
(5)	<b>地域医療機関・介護施設等に対する支援の充実</b> ・地域医療機関への情報発信、支援	・県立3病院とともに、県から「へき地医療拠点病院」として指定を受け、へき地診療所や医師の確保が困難な医療機関に対し、医師派遣による診療支援を行った。 （R2年度派遣実績、中央病院785回、三好病院145回、海部病院251回、3病院合計1,181回） ・感染症対策については、ICD・ICNといった感染対策の専門スタッフにより構成される感染制御チームが中心となり、地域医療機関と合同で、院内感染対策にかかるカンファレンスを実施している。また、医療機関の間で相互に訪問を行い、院内感染対策に関する評価を行っている。地域全体での感染対策のポトムアップを図った。	◎ 達成

経営計画の概要 【令和2年度実績値の（）書きは、令和元年度からの増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
<p>(6)</p> <p><b>精神科医療ニーズの高まりに対する対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せん妄や抑うつ、認知症患者等、精神科医療への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央病院では、平成30年度から多職種（精神科医・精神科認定看護師・臨床心理士・精神保健福祉士）により編成した精神科リエゾンチームが、定期的なカンファレンスや病棟ラウンドを実施し、身体疾患に伴う精神症状の悪化や心理的問題、認知症ケア、せん妄等の患者に介入することにより、よりよい医療の提供とケアの充実に努めた。</li> <li>・三好病院では、高齢化に伴う認知症対策として、認知症対策チーム（オレンジチーム）による院内デイケアや院内ラウンド等を行い、高齢者や認知症患者に対し適切な医療や看護が提供できるよう取り組みを行った。 平成29年度からは、認知症オレンジカフェを、みよし地域包括支援センターと共同で行い、認知症の方や家族が経験者の話を聞いたり、悩みを打ち明けたりできる機会を設けた。（R2年度実績 12回開催）</li> <li>・海部病院では、毎週月曜日と金曜日の午後、完全予約制で認知症外来を実施した。</li> </ul>	<p>◎ 達成</p>
<p>(7)</p> <p><b>住民に開かれた病院運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の病院経営への参加機会の設置</li> <li>・住民への公開講座、ボランティア参加の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央病院では、新型コロナウイルス感染症の影響により、県民公開講座等の開催を見送り、病院ボランティアの活動（ホール案内・車いす利用者の介助等）も控えることとした。また、オープンホスピタル（県内高校生対象）の開催も見送ることとした。</li> <li>・三好病院では、地域住民の代表である「三好病院を応援する会」との意見交換会を開催し、関係者と意見交換を行い、病院運営の参考にした。例年、県民公開講座、三好病院出前講座や「生き生き講座」を行っているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響を受け、大きく縮小した形での実施となった。 また、病院ボランティアによる屋上庭園の手入れや季節の飾り、病棟でのイベント等を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響を受け、令和2年度はボランティアの受入を見送った。</li> <li>・海部病院では、県内大学看護学科の見学研修（Web）、公開研修を開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により、院内でのイベントや中高生の実習の受入を見送った。</li> </ul>	<p>◎ 達成</p>

## 3 「医療の質の向上」に向けた取組

経営計画の概要 【令和2年度実績値の（）書きは、令和元年度からの増減数】					計画達成に向けた取組の概要	自己評価	
(1)	<b>チーム医療の推進</b> ・多職種の医療スタッフによるチーム医療の推進				・医師をリーダーとして多職種で構成される診療チームとして、NST（栄養サポートチーム）、褥瘡対策チーム、ICT（院内感染制御チーム）、緩和ケアチーム、糖尿病チーム、呼吸ケアサポートチーム、口腔ケアチーム、精神科リエゾンチーム、フライトチーム、ICLSチーム、DMAT、DPATなど多数のチームが活動しており、良質で安全な医療の提供に取り組んだ。 ・各種チームは、病棟ラウンド・チームカンファレンスのほか、院内・院外に向けた研修会を行うなど、積極的に活動している。 ・チーム活動の一環として、糖尿病教室やがん患者教室、アルコールミーティングなどの患者教室を定期的に開催し、地域に貢献している。	○ 概ね達成	
	主要指標	計画策定時 H26年度	R元年度 実績値	R2年度 実績値			R2年度 目標値
	○薬剤管理 指導件数 【中央病院】	11,961件	16,633件	15,167件 (△1,466件)			16,000件
	【三好病院】	3,841件	2,644件	2,573件 (△71件)			4,000件
	【海部病院】	1,905件	1,045件	889件 (△156件)	1,900件		
(2)	<b>病院機能評価の継続受審</b> ・機能評価の受審により、課題の把握と改善への取り組みを推進				・3病院ともに、病院機能評価を受審し、認定を受け、認定期間中の確認として報告を行い、更なる改善に取り組み、医療の質の向上に努めた。今後も引き続き、効率的な運営を目指して業務改善等に取り組む。	◎ 達成	
(3)	<b>医療安全対策の推進</b> ・ヒヤリハットの事例収集、分析により、医療安全対策の推進 ・医療安全研修の実施				・県立病院で発生した医療事故について、原因の分析・究明及び再発防止策等の評価・提言を行い、組織的な医療事故防止に資するため、徳島県立病院医療安全対策委員会を開催した。 ・医療事故の未然防止、発生した事故の影響拡大防止と再発防止に向けて、勉強会・研修会を開催し、積極的な参加や安全への意識の向上に取り組んだ。また、ヒヤリ・ハット報告の重要性を繰り返し伝えた。 ・医療事故想定訓練を開催し、具体的な事例を示しながら、チームワークの重要性と予防対策について全職員を対象に周知徹底に努めた。	○ 概ね達成	
	<b>院内感染対策の推進</b> ・院内感染対策チームを中心として研修会や院内ラウンドの実施 ・地域の医療機関や行政機関との連携						・ICT（医師、看護師、検査技師、薬剤師等）では、院内ラウンドやカンファレンスを行い、抗菌薬適正使用の推進や感染対策の改善に努めた。 ・新型インフルエンザ患者の入院に備え、感染症病床への受け入れ、搬送訓練、PPEの着脱訓練を行い患者発生時の体制設備の確認を行った。

経営計画の概要 【令和2年度実績値の（）書きは、令和元年度からの増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
<p>患者・職員の満足度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合相談の窓口における患者サポートの充実</li> </ul> <p>(5) 患者満足度調査の現状分析・検証・改善の実施による、患者満足度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働きやすい職場環境の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院局職員を含む県職員が対象となる「徳島県特定事業主行動計画」を見直し、平成27～令和6年度までの新たな計画を策定している。引き続き、子育てと仕事の両立を支援し、働きやすい職場環境づくりに努めていく。</li> <li>・相談窓口は、患者さんからの病気、受診等に関する相談や質問、専門部署への案内などを行い、患者さんの満足度の向上に努めている。</li> <li>・毎年、患者満足度調査を実施し、調査結果については、全職員で情報共有するとともに、職員を対象に接遇研修を実施し、接遇能力の向上を図った。</li> </ul>	◎ 達成
<p>患者さんの信頼を得る医療の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インフォームドコンセントの取り組みを推進</li> <li>・セカンドオピニオン相談の周知</li> <li>・臨床指標の公表</li> </ul> <p>(6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の治療に関わる情報を確実に説明し、同意を得る「インフォームドコンセント」について、誠意を持って説明に取り組んでいる。</li> <li>・「セカンドオピニオン外来」を開設して、がん又はその疑いのある患者さんやご家族からの相談を受けている。</li> <li>・「臨床指標の公表」については、入院・外来患者数等の病院の基礎的情報や退院患者の集計を基にした統計データをホームページに掲載することにより、県民や患者さんに病院機能、医療情報の可視化を行い、医療の質の向上に繋がるよう努めている。</li> </ul>	◎ 達成
<p>広報活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院ホームページの充実</li> <li>・地域医療機関への情報発信、広報活動の推進</li> </ul> <p>(7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院局、各県立病院のホームページにおいて、診療案内、各種指標等の積極的な情報提供を行い、患者サービスの向上に努めるとともに、イベント等の新着情報についても掲載し、患者や医療関係者に情報発信を行った。</li> <li>・広報誌、各種パンフレットを発行し、関係機関や来院者に配布し、情報提供を積極的に行った。</li> </ul>	◎ 達成

経営計画の概要 【令和2年度実績値の（）書きは、令和元年度からの増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
<p>(8) 快適な病院利用環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディカルストリートの整備</li> <li>・海部病院の移転改築に伴う患者利用環境の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディカルゾーン構想外構工事について、平成31年2月2日に中央病院と徳島大学病院をつなぐメディカルストリートが開通し、記念式典を行った。</li> <li>・中央病院の駐車場について、徳島大学病院との共同利用、料金の統一化を図るとともに、病院敷地内への路線バスの乗り入れが開始された。</li> <li>・三好病院の低層棟において、外壁改修工事や屋上防水工事を行い、施設の長寿命化を図り、快適な病院利用環境の整備に努めた。</li> <li>・海部病院は、平成29年5月8日に、高台に移転し開院した。開院に併せて路線バス(上下16便)が構内乗り入れを開始。また、立体駐車場を整備し合計183台分の駐車スペースを確保した。</li> </ul>	<p>◎ 達成</p>

#### 4 「経営の効率化」に向けた取組

経営計画の概要 【令和2年度実績値の（）書きは、令和元年度からの増減数】					計画達成に向けた取組の概要	自己評価	
(1)	<b>急性期医療の重点化</b> ・ 適正な平均在院日数と病床利用率の管理 ・ 地域医療機関との連携による新規入院患者増加への取組を推進 ・ 救命救急病床数の増加、日帰り手術の実施に向けた取組を推進				・ 中央病院は、高度急性期病院・3次救急病院として、高度な医療機械を導入し、重篤な患者を積極的に受け入れている。 平成29年4月より外傷センターを設け、より専門性の高いプロフェッショナルによる救命向上に努めた。 外来機能の役割分担について、地域医療機関との連携を推進し、新規患者の確保に努めるとともに、入院期間Ⅰ＋Ⅱの割合が80%以上という目標に対し、平均在院日数の適正な管理に努めた結果、目標を達成することができた。  ・ 三好病院は、急性期型病院としての機能の重点化を図るため、平成28年3月から7：1入院基本料の施設基準を取得し、平均在院日数の適正管理に努めた。また、地域の医療機関との連携を推進し、新規入院患者の受け入れを図った。 今後、四国中央部の拠点として、急性期病院としての地域での役割を明確化し、救急入院及び紹介入院による新規入院患者数の受け入れに取り組み、収益の増加を図っていく。	○ 概ね達成	
		計画策定時 (H26年度)	R元年度 実績値	R2年度 実績値			R2年度 目標値
	○平均在院日数 【中央病院】	9.7日	9.8日	10.3日 (0.5日)			9.6日
	【三好病院】	16.1日	13.7日	14.3日 (0.6日)			13.5日
	○1日平均新規入院患者数 【中央病院】	30.9名	32.1名	27.2名 (△4.9名)			33名
【三好病院】	8.2名	9.2名	8.3名 (△0.9名)	10名			
(2)	<b>DPC分析による経営戦略の策定</b> ・ DPCデータを基にした経営分析、他病院のデータとの比較分析 ・ 外部コンサルタントの活用				・ DPC対象病院として、診療情報管理、コーディング委員会を開催し、厚労省に提出しているDPCデータを用い、適宜分析を行うほか、DPC精度向上に取り組んでいる。  ・ 平均在院日数や地域でのシェア等を分析し、DPCデータを用いた経営分析、適切なコーディングに関する精度向上に努め、入院診療実績の向上を図った。	◎ 達成	

経営計画の概要 【令和2年度実績値の（）書きは、令和元年度からの増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
<p>(3) 診療報酬制度への戦略的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療報酬制度改定への迅速・的確な対応</li> <li>・診療報酬査定内容の分析、請求漏れの防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療報酬検討会を開催し、査定結果等を医療スタッフにフィードバックするとともに、請求漏れ、誤りの防止、査定減対策等、請求精度の向上に努めた。</li> <li>・令和2年4月の診療報酬改定に対応するため、情報収集を行い、新たな施設基準の取得などに取り組んでいる。</li> </ul>	◎ 達成
<p>(4) 未収金の発生防止と回収促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療費に関する支払相談の充実</li> <li>・未収金回収への積極的な取り組み</li> </ul>	<p>令和2年度の医業未収金（患者負担分）は、3病院の合計で2億3,015万7千円あり、令和元年度末未収金の2億6,479万1千円より3,463万5千円減少している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医事受託業者等との連携による未収金発生の抑制及び回収の促進、電話や戸別訪問による督促を実施した。</li> <li>・一定の要件を満たす場合の法的措置（支払い督促）実施した。</li> <li>・回収が困難となっているものについては、弁護士法人に回収を委託する。</li> <li>・個別債権の検討ワーキンググループにより回収に向けた方策を調査検討した。</li> </ul>	◎ 達成
<p>(5) 医師の確保と育成（再掲）</p>	—	—

経営計画の概要 【令和2年度実績値の ( ) 書きは、令和元年度からの増減数】					計画達成に向けた取組の概要	自己評価	
(1)	後発医薬品の採用				<p>・患者負担の軽減とともに費用の削減に繋がる後発医薬品の採用について、DPC分析の検証に基づき、計画的な拡大に取り組んだ。</p> <p>・後発医薬品数量割合は、令和2年度末において、すべての病院で「80%」を超えており計画目標を達成しているが、引き続き各病院の薬事審議会を通じて採用医薬品について随時、後発医薬品への切り替えを進めていく。</p>	◎ 達成	
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	R元年度 実績値	R2年度 実績値			R2年度 目標値
	○後発医薬品割合 【中央病院】	68.4%	88.7%	90.2% (1.5%)			70% (H28年度)
	【三好病院】	63.9%	89.7%	93.5% (3.8%)			80% (H30年度)
	【海部病院】	82.2%	93.9%	94.9% (1.0%)			
(2)	医療器械等の共同購入の推進（再掲）				—	—	
(3)	<p>効率的な委託業務の推進</p> <p>・長期継続契約、一括契約による経費削減</p>				<p>・物品管理・洗浄滅菌業務については、スケールメリットを活かし、病院局において、3病院を一括した契約を締結した。</p> <p>・警備、清掃業務で一般競争入札を実施し、長期継続契約を締結した。また、検査・給食・医事などの各委託業務内容の見直しについて検討し、効率化及び経費の節減に努めた。</p>	◎ 達成	
(4)	<p>医療情報システムの統一化及び総務事務のICT化</p> <p>・電子カルテシステムの統一化による費用の低減、 ・総務事務に係る電子決裁化による事務処理の省略化</p>				<p>・県立3病院で医療情報を共有し、システムの相互利用を可能とするとともに、総合メディカルゾーン本部の徳島大学病院や鳴門病院をはじめとする各圏域の地域医療機関との連携強化を更に進めるため、「病院総合情報システム」の導入を進め、平成30年10月28日から新システムが本格稼働した。</p> <p>・総務事務システムの導入に向けて、各病院の現場職員を含むワーキンググループを設置し、課題意見の集約及び検討を重ね、現場運用に即した仕様書を作成するとともに、発注手続きを進め、導入業務に係る契約を締結した。また、令和2年度中の本稼働を行うため、スケジュール調整や導入協議など、システムの構築作業を進めた。</p>	◎ 達成	

経営計画の概要 【令和2年度実績値の（）書きは、令和元年度からの増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
(5) <b>事務部門のスリム化と強化</b> ・ 病院組織の業務、体制の検討 ・ 専門性の高い職員の採用、育成	・ 各病院において、課を廃止し、担当制とし、各担当にリーダーを配置することで、効率的な業務の遂行を行うとともに、医療情報職を平成29年4月から採用した。	◎ 達成
(6) <b>病院資産の有効活用</b> ・ 医師公舎等の病院資産の有効活用	・ 平成29年2月に解体した中央病院の医師公舎跡地に、不足する駐車場スペースを新たに整備し、有効活用によるサービスの向上を図った。	◎ 達成

## 各県立病院の取組状況について

- 1 中央病院 . . . p. 1 ~ p. 9
- 2 三好病院 . . . p. 10 ~ p. 21
- 3 海部病院 . . . p. 22 ~ p. 30

# 県立病院を良くする会

徳島県立中央病院の取り組み状況について

R4.2.28

院長 葉久 貴司



徳島県立中央病院  
TOKUSHIMA PREFECTURAL CENTRAL HOSPITAL

## 徳島県立中央病院

当院は24時間365日高度急性期医療を提供しつつ、がん、小児・周産期、精神、災害医療、新興感染症対策なども担う役割をもち、「県民に親しまれ、信頼される病院になる」という基本理念があります

許可病床数 460床

一般 390床、結核 5床、感染 5床

精神 60床

全 28診療科

DPC特定病院群

機能評価係数II 0.1262(令和2年)

(急性期医療機関の機能を評価した偏差値のようなものです。全国で9位でした)

「強くて、優しい病院」をめざす

### 臨床指標(令和2年度)

1日平均入院患者数 322.1人

1日平均外来患者数 525.3人

平均在院日数 10.3日(精神科除く)

手術件数 5,452件/年

分娩件数 194件/年

救急医療(救命救急センター)

総救急患者数 11,813件

救急搬送数 4,859件

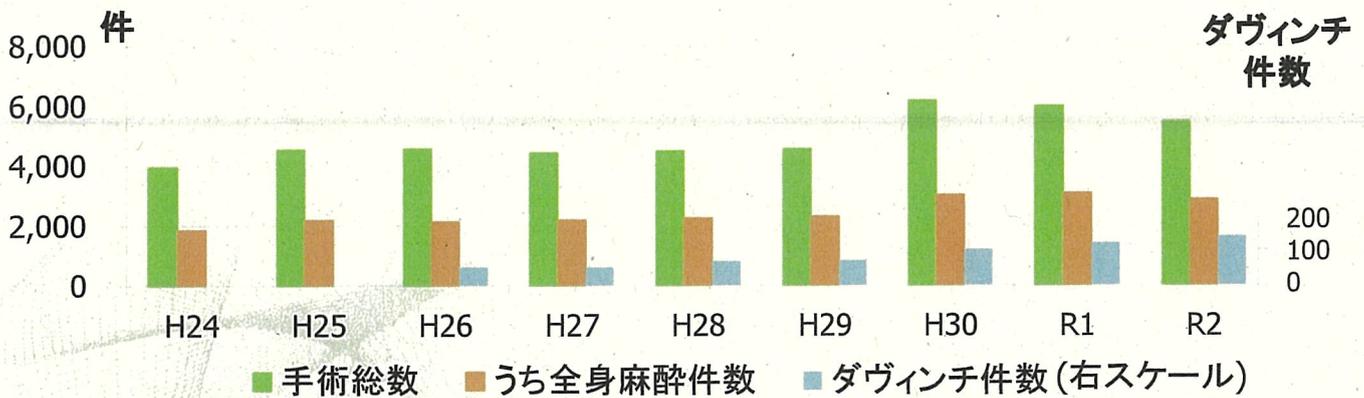
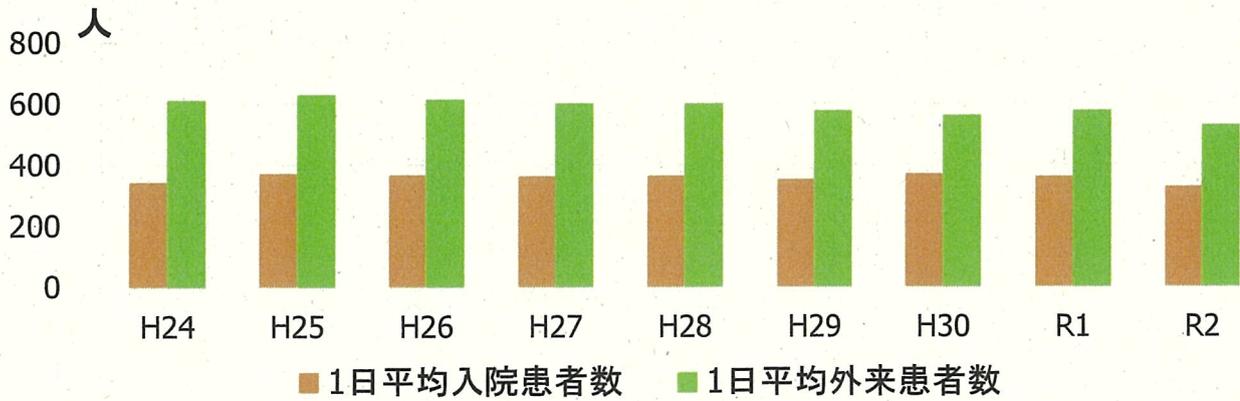
うち3次救急 615件

ドクヘリ出動 471件

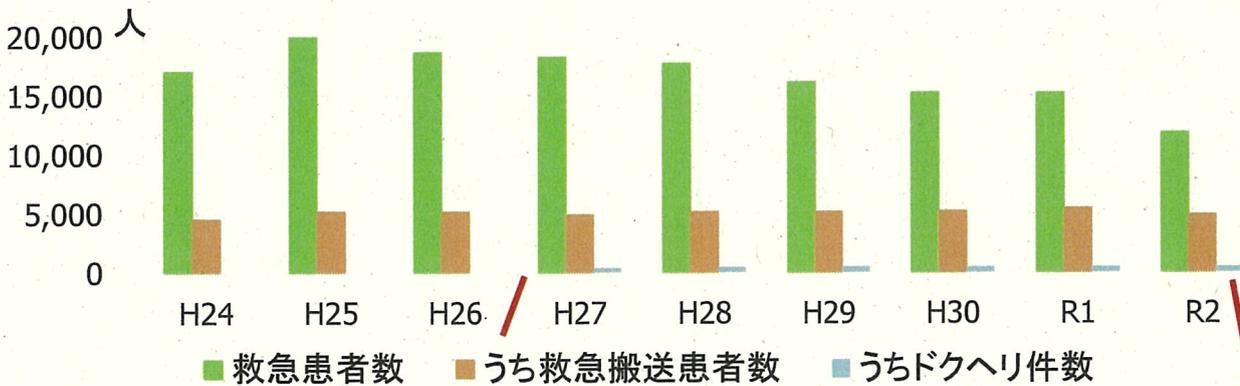
ドクターカー出動 87件

うち救急要請 15件

## 【1日平均患者数 & 手術件数の推移】

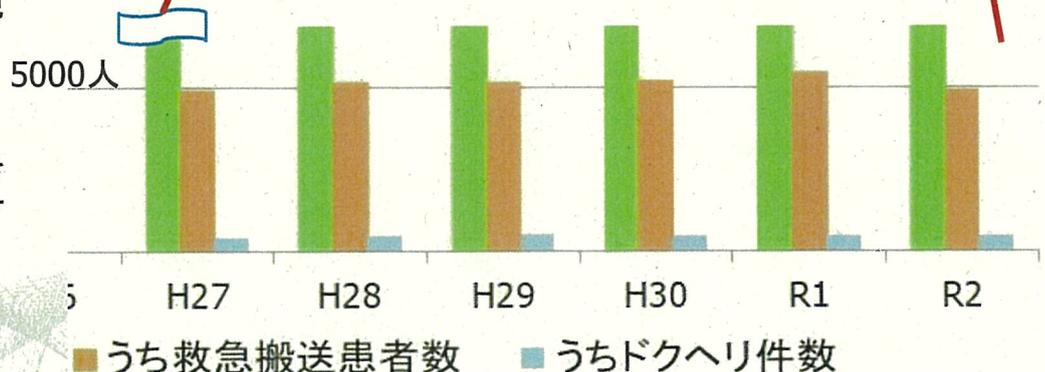


## 【救急患者数の推移(人)】

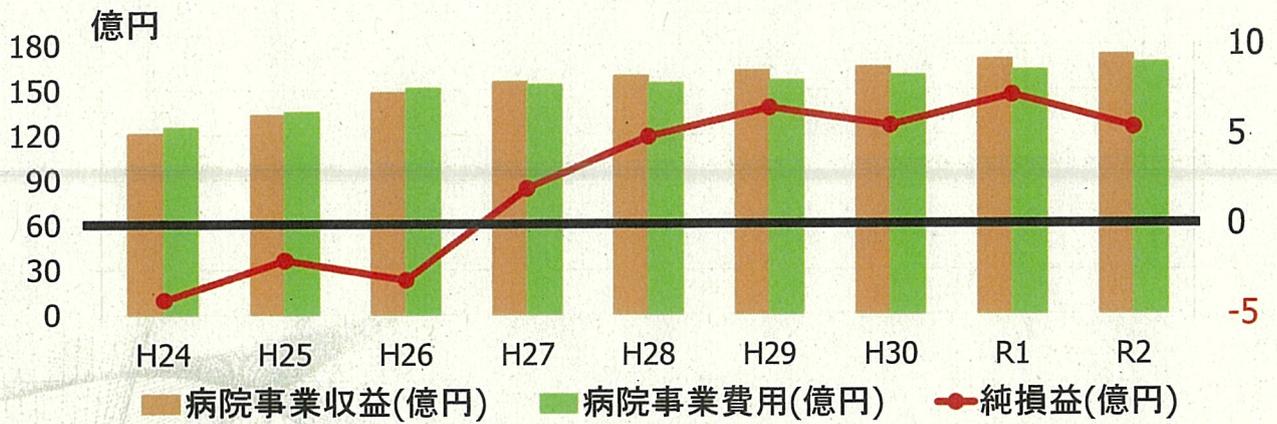
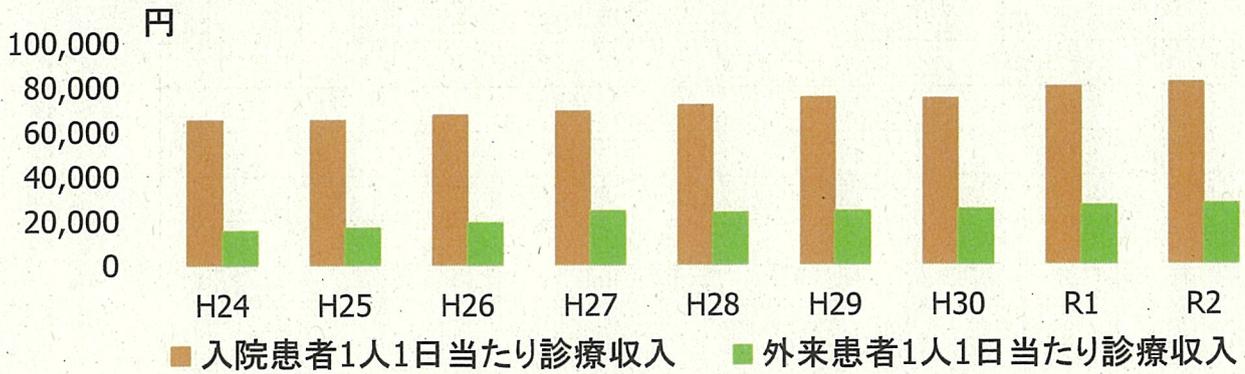


平成29年7月より  
ホスピタルカー(高規格救急車両)を導入

令和2年11月より救急隊の要請に基づき医師を現地に派遣するドクターカーとしての運用開始(2年度末までに15件)

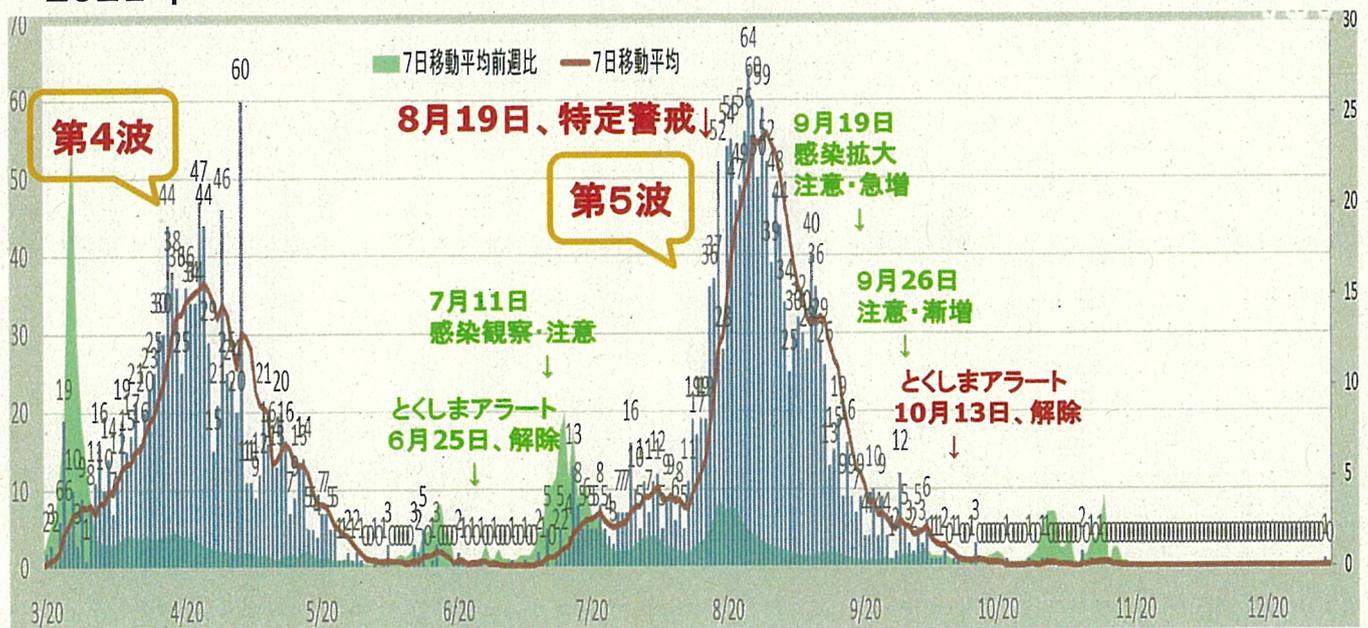


# 【患者1人1日当たり診療収入及び決算状況】



# 徳島県新型コロナウイルス感染症新規陽性者数

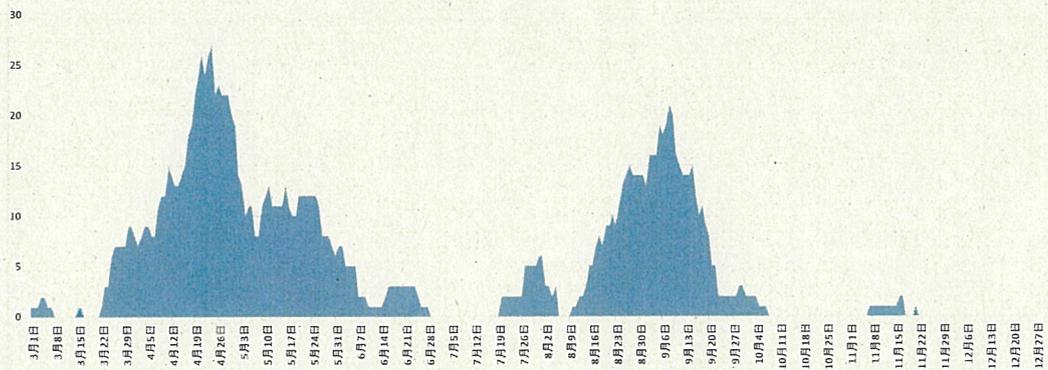
2021年



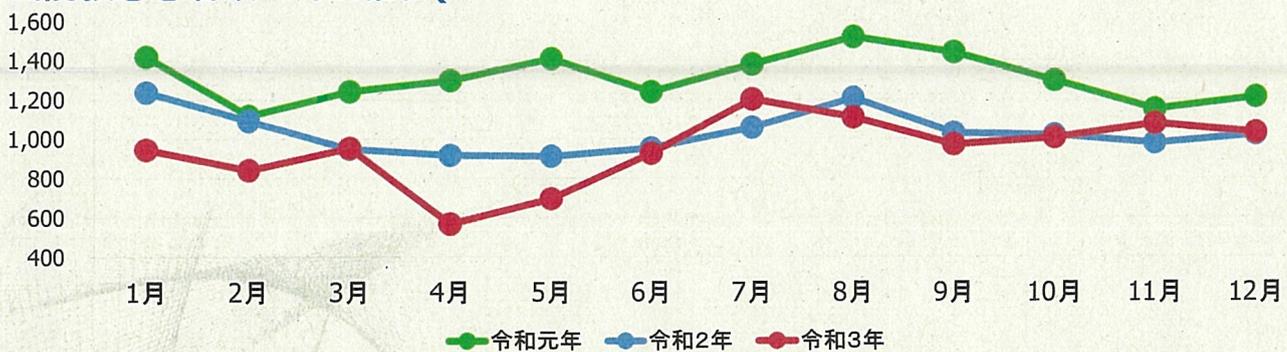
# 当院新型コロナ入院患者数及び救急患者数

2021年3月～12月

新型コロナウイルス  
感染症入院患者数



## 当院救急患者数の月別推移(人)



## 新型コロナウイルス感染症第4波、第5波の経験から第6波に対応

当院において、令和3年4月8日に入院患者から新型コロナウイルス感染の陽性患者が発生し、さらには本県における新型コロナウイルス感染症患者の著しい増加を踏まえ、重点医療機関として「中等症」以上の患者への着実な対応を図るため、対策本部を設置し、コロナ病棟増床の依頼に対し、ICU、一般病棟、病床を、一部休止・削減し急速改修工事も施行しました。

病棟編成変更に伴う、看護スタッフの異動や他病棟からのサポート体制を構築し、呼吸器内科医、救急医、集中治療医のコロナ診療に対する過重労働を軽減するため、他診療科医のER、ICUサポート、コロナ+誤嚥性肺炎患者の内科系診療科医の受け持ち当番制にて対応し、5月25日収束宣言に至りました。

- ◆ 当院のCOVID-19入院患者数に応じて、院内フェーズを移行するBCPを策定しました。
- ◆ 救急外来、緊急手術は可能な限り維持するため、フェーズに応じて、一般病棟、4F病棟、ICUを削減、スライドし、予定手術を調整します。

## 【ICT(情報通信技術)を活用した遠隔診療】

### ◆ 5G回線を活用した遠隔医療の推進(地域医療支援)

- ・令和2年1月に中央病院・海部病院間において5Gによる**糖尿病遠隔診療**の実証実験を実施し、令和3年7月27日に**糖尿病遠隔診療と内視鏡遠隔診断支援**を開始
- ・令和3年9月9日及び12月16日に中央病院・三好病院間において**8K映像伝送によるローカル5Gの実証事業**を実施



## 【医療安全】

■ 当院の医療安全は、Team ST EPPSの理念に基づいています。Team STEPPSとは、医療の成果と患者の安全を高めるチーム医療のことです。

■ 2 Challenge Rule (2回チャレンジルール) は、Team STEPPSのコミュニケーションツールの1つです。

■ 基本的な安全上のルール違反を発見した時や、危険性を察知した人がその行為をやめさせるために提案を繰り返し最低2回は提案することです。安心して提案できる職場環境を作ります！

2回チャレンジルールは院内ルールです！



2回チャレンジルールとは、1度話した内容がうまく伝わってないと感じたら、もう1度自分の意見を主張すること。このルールの下に、相手は必ず対応しないといけません。無視はできません。

2回チャレンジルールは、2018年に前院長が当院のルールとすることを宣言されました。葉久院長もルールを継続する事を宣言されました。

2回チャレンジ ヨシ！

2021年 5月 医療安全センター

# 【KY(危険予知)標語】

ミスを防ぐには、普段からの**危機管理**が大切です。

作業に潜む危険を話し合い、あらかじめ**予知・対策**を行う**KYT(危険予知トレーニング)**や、確認時の**ミス**を減らす**指さし呼称**、そして私たちの**心身の健康**が必要です。

KYT 周囲にどんな危険が潜んでいるかを考えてみると、気がつかなかった日常の危険を認識できます

どこに危険がありますか？ イラストを見てトレーニングします



**指さし呼称** 認識した対象に対して目と耳と手で確認する事でミスの確率は1/6減少します

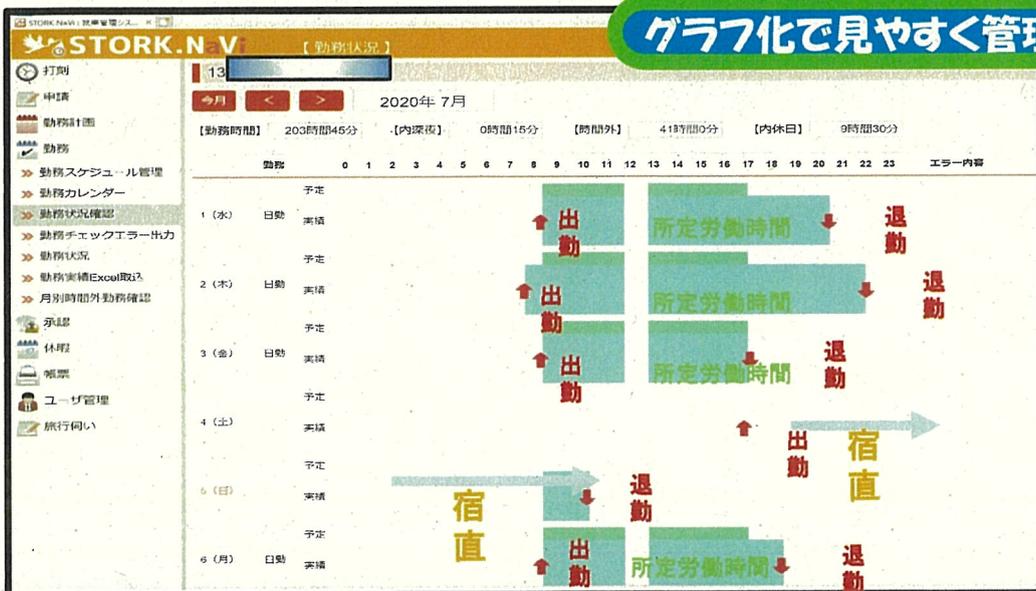
**健康確認** 職員の健康を確認、問いかけする事で、コミュニケーションにも繋がります



**危機管理 ヨシ！**

2021年 8月 医療安全センター

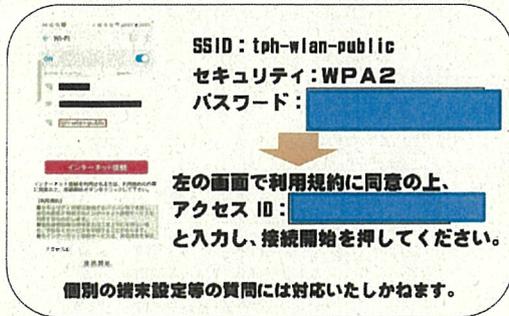
# 【働き方改革】勤務時間の適確な把握のために



医師に対する、時間外労働規制、働き方改革を見据え、時間外・休暇状況をリアルタイムに把握、見やすくグラフ化して、労働時間を客観的に自己管理できる**勤怠管理システム**を導入しました。

# 【業務改善】病棟患者用 WiFi運用開始しました

## Wi-Fi 使えます



利用時間：7:00～21:00

## コロナ禍の面会禁止の取り決めに 対応

令和2年12月1日から、下記の場合を除き面会禁止になります

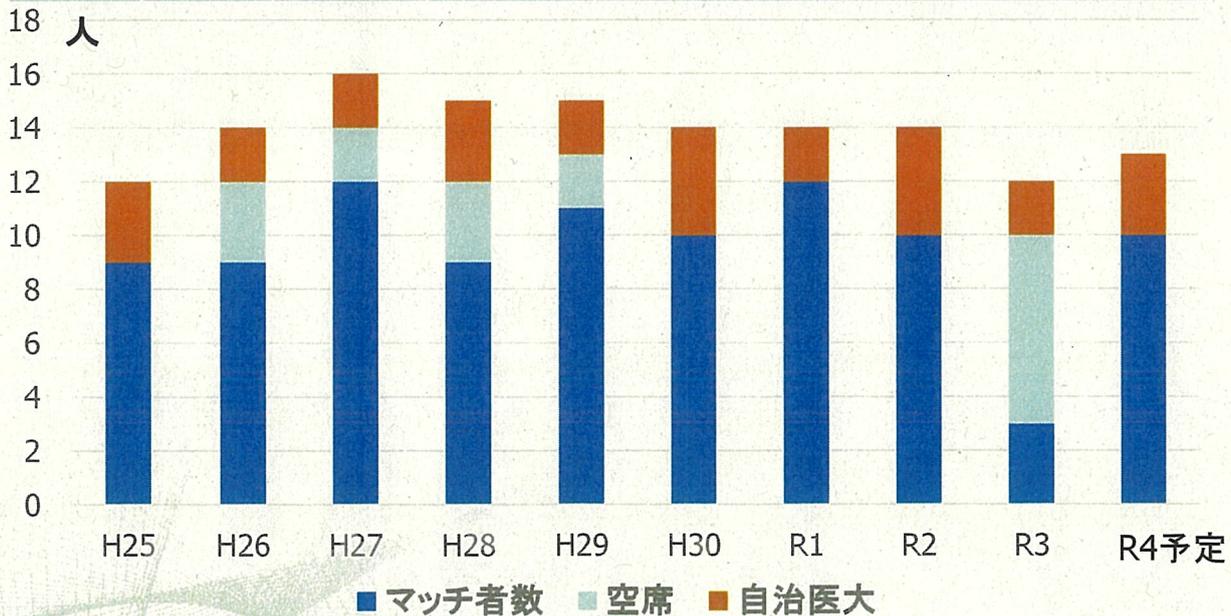
- 1, 入退院日の付きそい
- 2, 手術当日・検査など待機が必要な場合
- 3, 病状説明などこちらから依頼した場合
- 4, 病状により主治医の許可がある場合

※ 令和3年7月12日～

- ・アクセスID、パスワードは、各自入力
  - ・自身の病室のみ、イヤホン使用
  - ・院内の撮影、録音の禁止、外部公開禁止
  - ・療養生活に支障の無い範囲で、利用を認めます
- ※ 令和3年8月からは、スマホ等持たない患者向けに、iPad、LINEを利用した、リモート面会もICUから試行し、各病棟へ拡大しました

# 【人材育成】卒後臨床研修マッチング

都道府県	病院番号	病院名	プログラム番号	プログラム名称	定員	マッチ者数	空席数
徳島県	030661	徳島県立中央病院	030661104	臨床力養成プログラム	10	10	0



# 徳島県立中央病院ER棟新築事業

～「新たな日常」を通じた「質の高い医療」を提供できる  
「安全・安心な徳島」の実現～

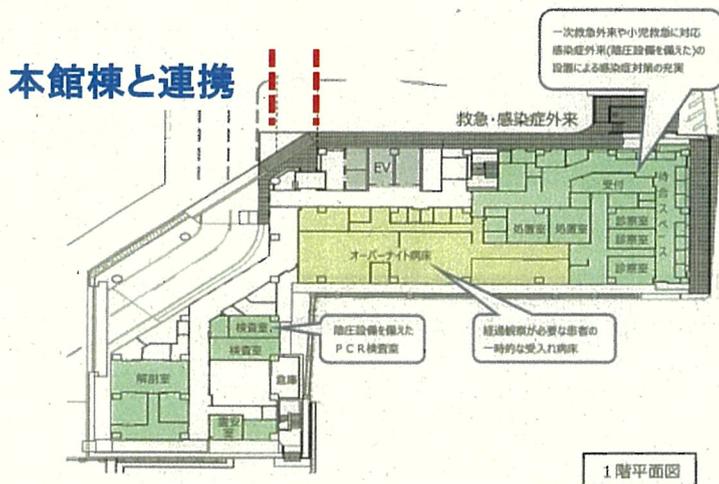
10月20日 起工式:断らない救急医療の確立へ



ER棟 渡り廊下 本館棟

完成イメージ図

## 【ER棟平面イメージ図】



- 【1階】  
救急・感染症医療の  
充実
- 【2階】  
内視鏡センターを拡充  
し、緊急処置にも対応

- 【3階】  
5G回線を常設した遠隔診察室・会議室  
発災時には災害対策本部、DMAT活動拠点本部
- 【4階】  
スキルスラボによる人材育成の強化  
HCUとしても相互利用

## 令和3年度自治体立優良病院総務大臣表彰

当院は「令和3年度自治体立優良病院総務大臣表彰」を県内で初めて受賞しました。

平成24年の新病院開院以来、PET/CT、ダ・ヴィンチ、強度変調放射線治療の可能なリニアックなど、高度医療機器を整備し、先進医療の提供、医療の質の向上に取り組んで参りました。

また、地域の医療機関との連携を密にし、かかりつけ医からの紹介患者を増やすことができ、手術件数も増加しました。このようなことにより、病院事業会計の決算で黒字を続けて計上できました。

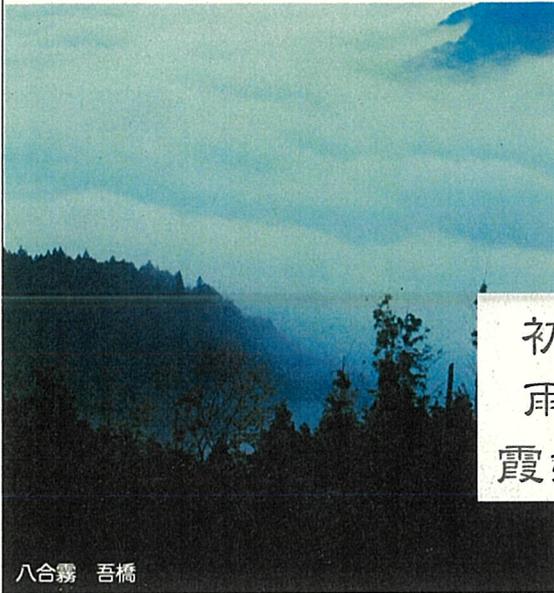


★今回の受賞を励みに、さらに病院職員が一丸となり、県民医療最後の砦となるべく、良質な医療の提供と、経営の健全性の確保に取り組んでまいります。

# 徳島県立三好病院 西部圏域を守る



徳島県立三好病院  
院長  
住友 正幸

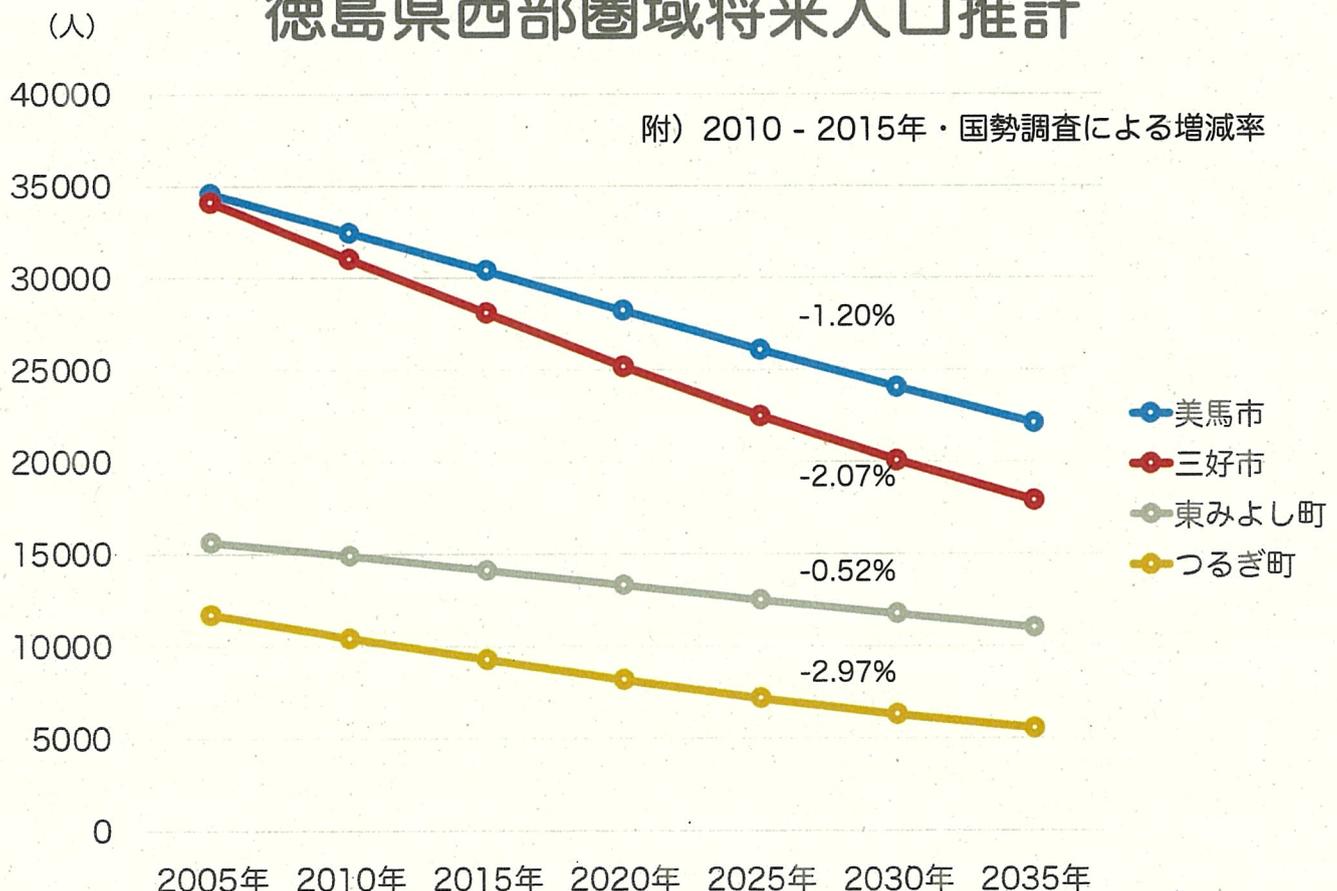


初春  
雨水  
霞始靄

(データ作成：横佐古 亜弓、井内 英二)  
2022年2月28日 「県立病院を良くする会」 予行 WEB

八合霧 吾橋

## 徳島県西部圏域将来人口推計

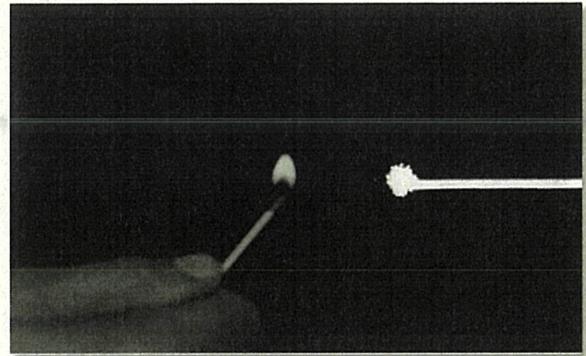


国立社会保障人口問題研究所データより作成 (住友)

# 三好病院の使命 mission



- **四国中央部の要となる** (2014年 開設者)
  - ~~西部圏域医療の最後の砦となる (それまで)~~
- Mission impossible?
  - 地域が収縮してゆく中で「**要**」となるくらいでなければ病院の存続もない



Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

3/24

# 病院存続の目的



- 医療の目的
  - 国民の**健康の保持**に寄与すること (医療法)
  - 国民の**健康な生活**を確保すること (医師法)
- 公的病院として
  - 県民の**暮らし** (happiness) を**医療** (健康 = well being ≡ cure + care) で支えるために、西部圏域全体での**連携**を保ちながら自院の**経営**を進める

4/24

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital



# 連携 (cooperation)

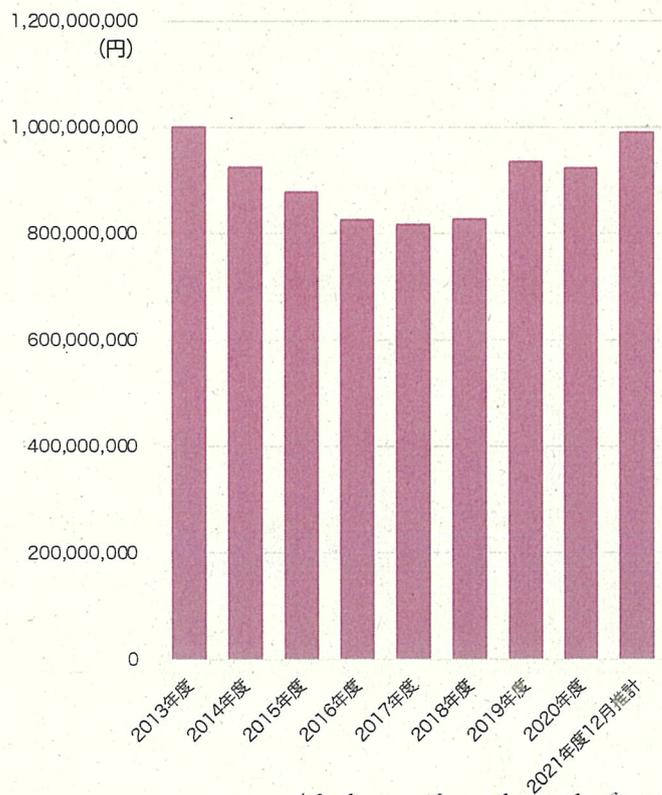
5/24

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

## 一日平均外来患者数



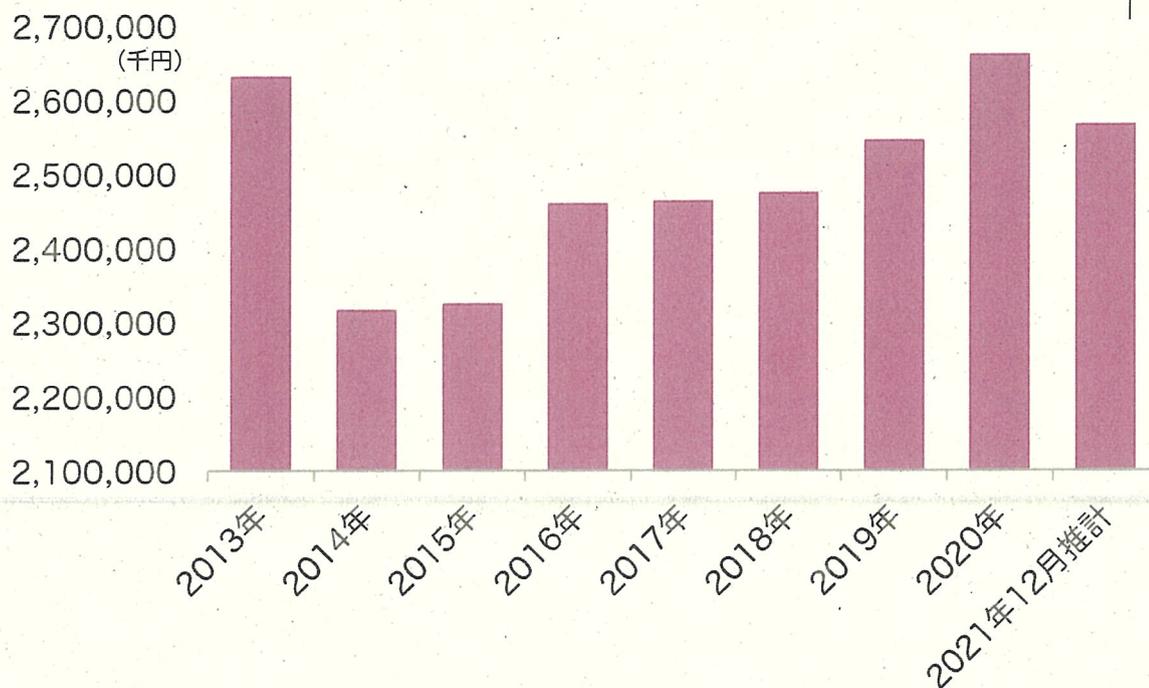
## 外来収益



6/24

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

# 入院収益



7/24

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

# 医療 (cure)



8/24

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

令和2年度4月

# 高度先進関節脊椎センター 開設



- 関節ロボット手術
- 脊椎内視鏡手術
- リハビリテーションの統合



大場 浩一 センター長



徳島大学運動機能外科学教室提供

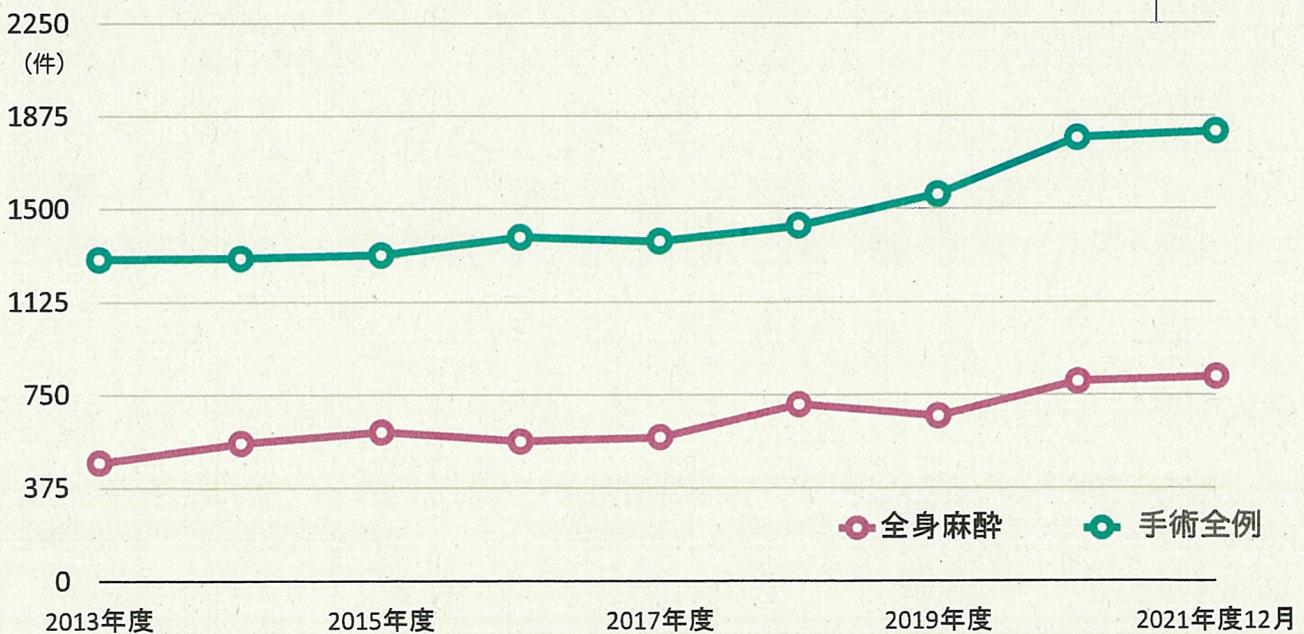
- 県民啓発
  - 県民公開講座 Hybrid  
(9月27日 西良 浩一 教授)



9/24

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

## 手術数



10/24

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

# 今後の方向性



- 5疾病6事業（公的病院の使命）
  - 脳神経センター
  - 心不全チーム
  - 感染症チーム

11/24

*Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital*

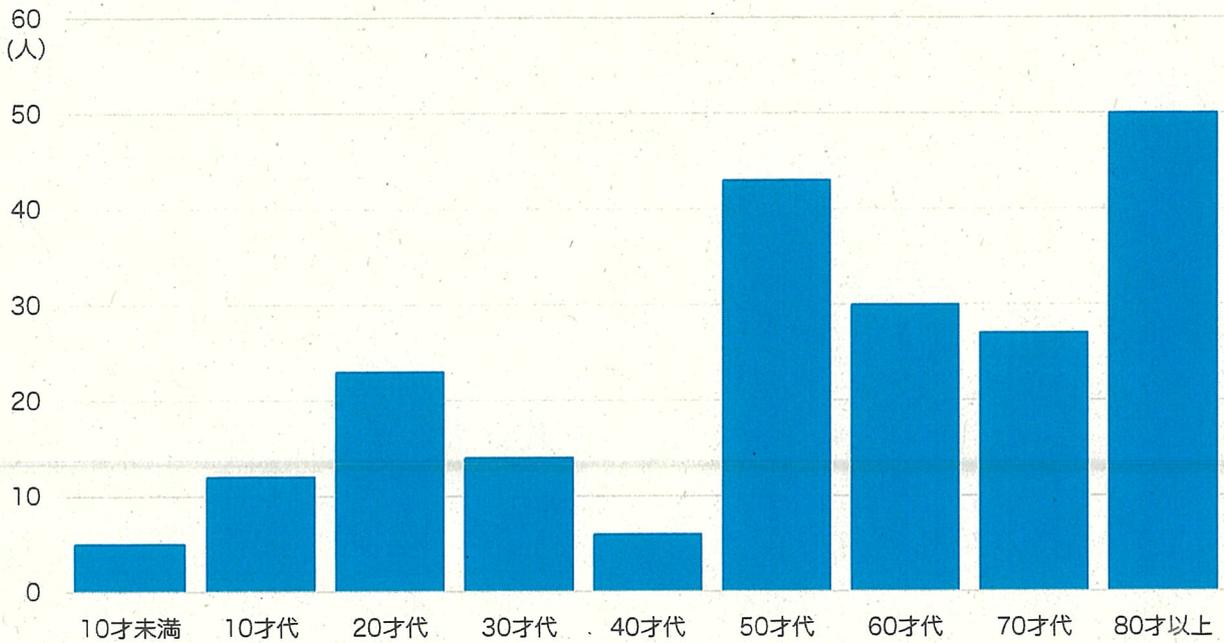
# 感染症（Covid-19）



12/24

*Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital*

# 新型コロナウイルス感染症入院患者数 (2020年3月～2021年6月)

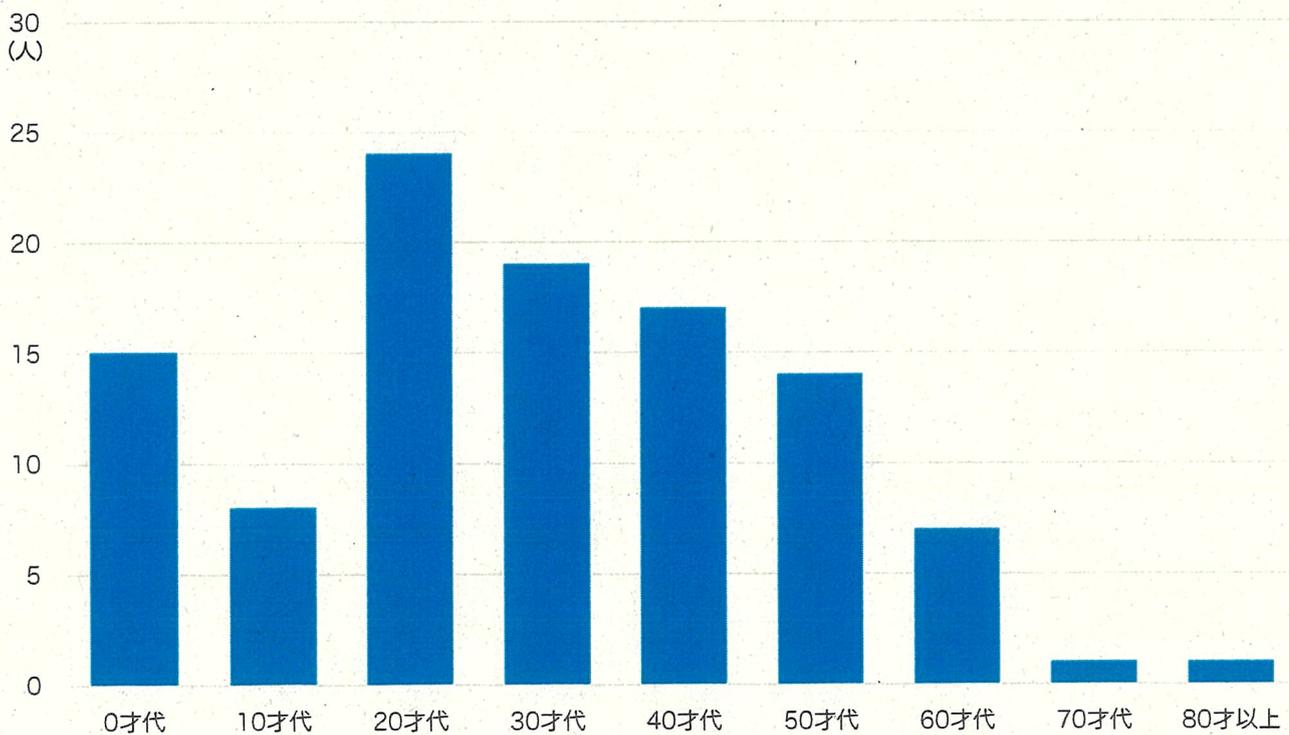


13/24

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

# 新型コロナウイルス感染症入院患者数

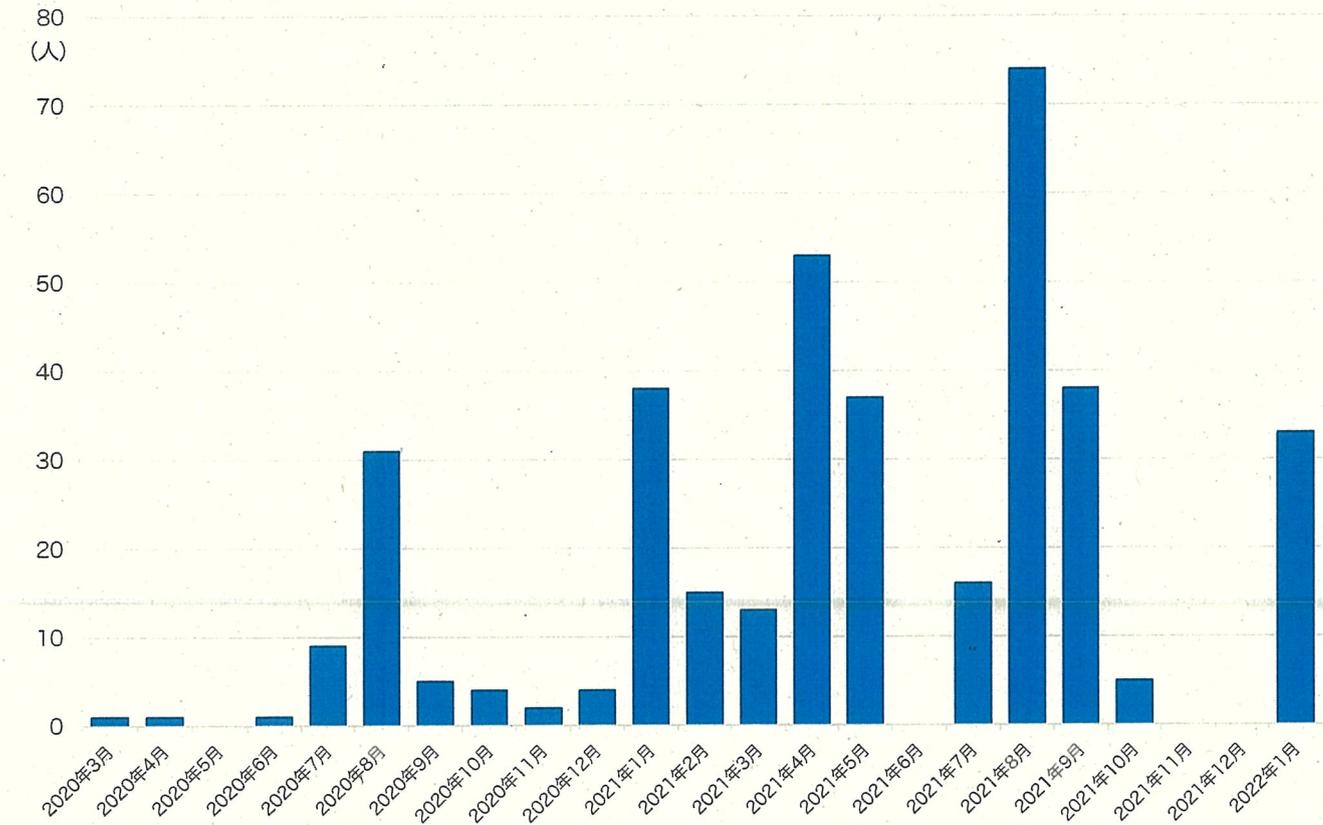
103/315人  
(7月1日～9月9日)



14/24

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

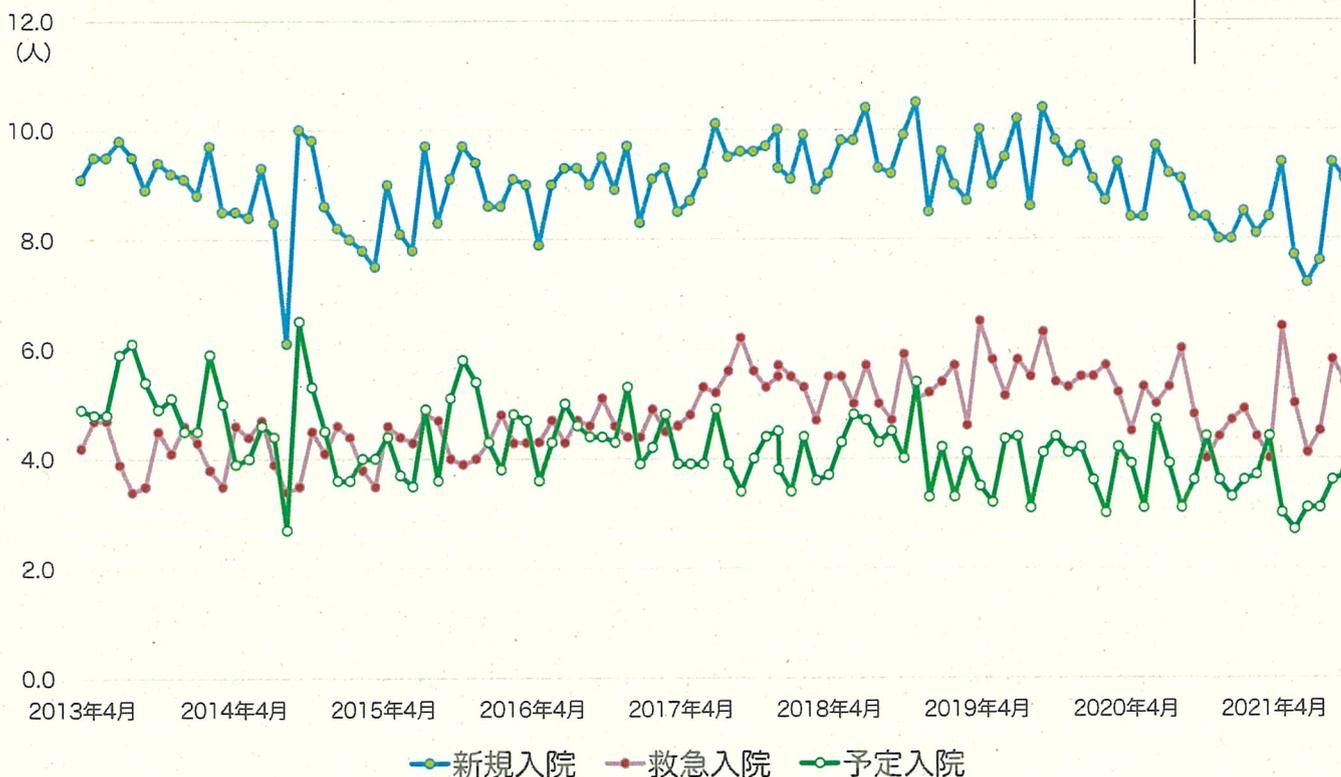
## 徳島県立三好病院Covid-19月別入院数



15/24

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

## 経路別・新規入院患者数



16/24

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

# 救急搬送

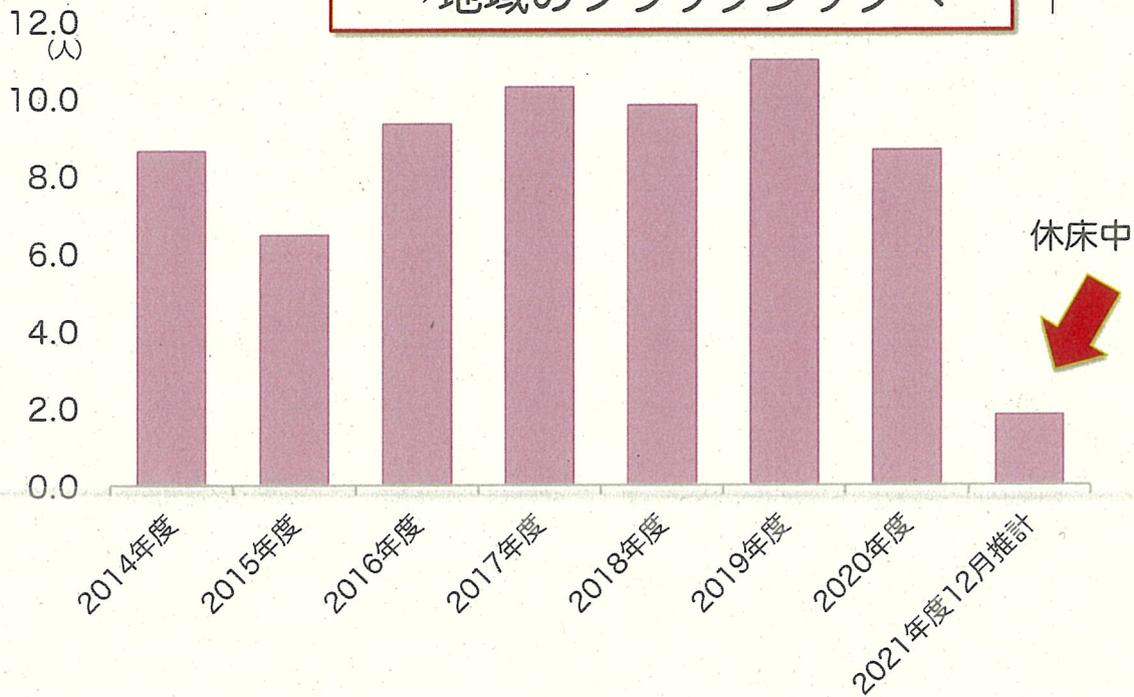


# 緩和 (palliative care)



# 緩和病床

がんだけでなく一般病棟の緩和  
心不全、呼吸不全など  
→地域のフラッグシップへ

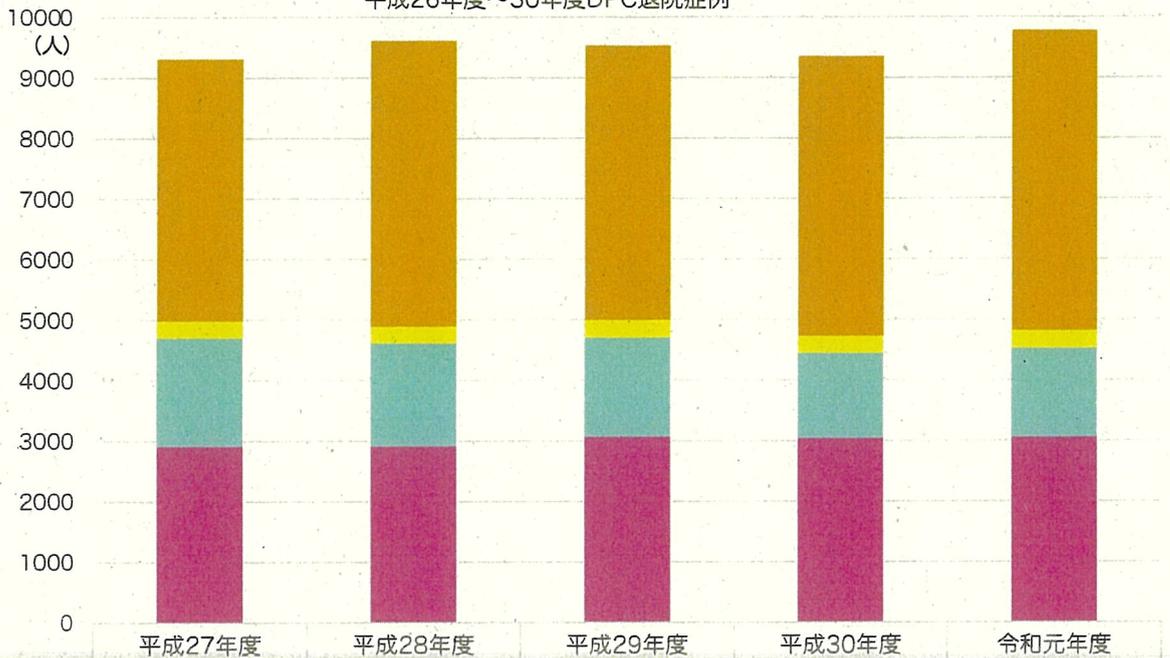


# 経営 (sustainability)



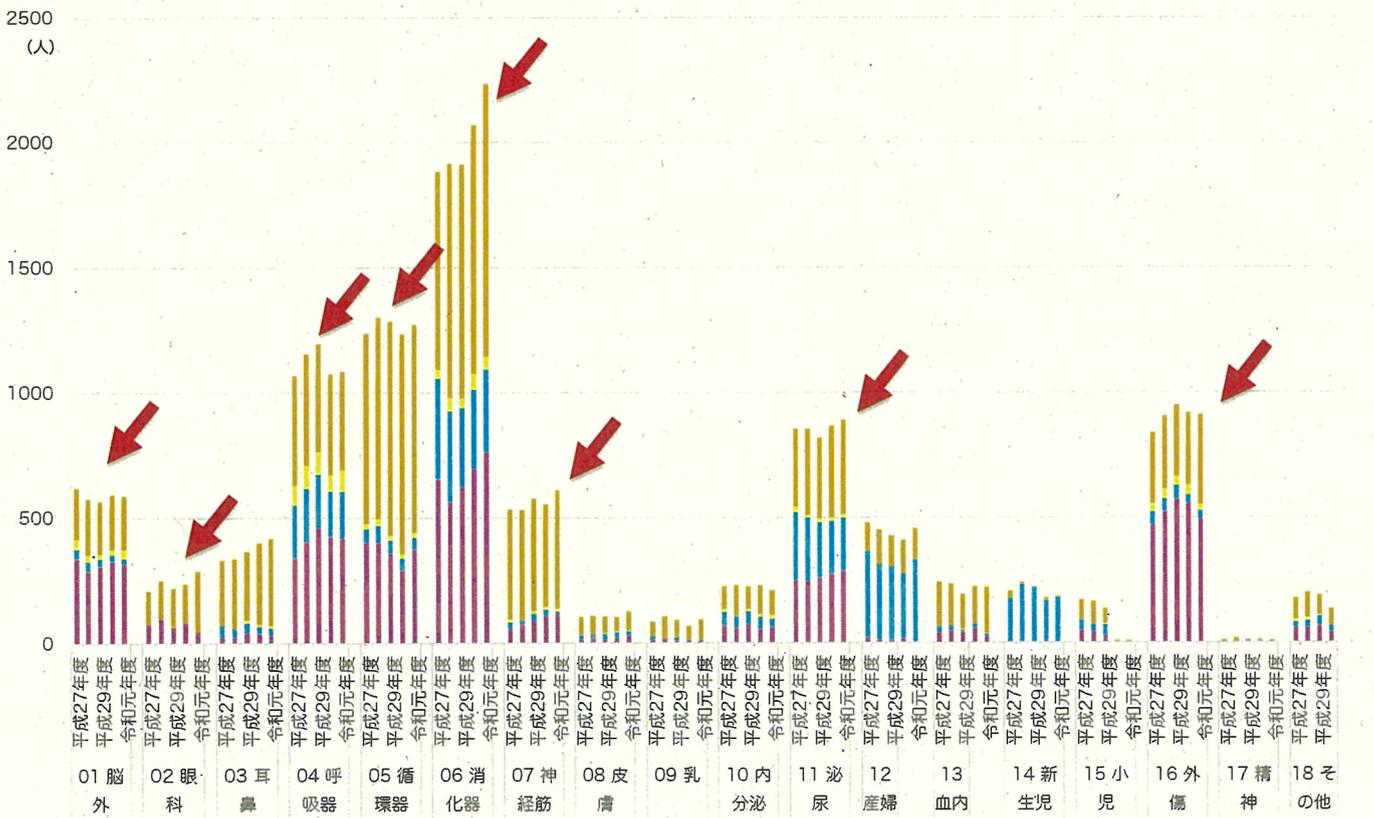
西部医療圏在住入院患者に対する三好病院入院患者数

平成26年度～30年度DPC退院症例



	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
■ その他	4326	4716	4529	4619	4959
■ ホウエツ病院	277	272	284	273	286
■ つるぎ町立半田病院	1790	1699	1638	1404	1466
■ 徳島県立三好病院	2921	2924	3078	3053	3066
西部全体	9314	9611	9529	9349	9777
西部人口 (4月1日)	80914	80007	78437	76902	75252

平成26～30年度DPC退院症例 (西部医療圏 MDC別)

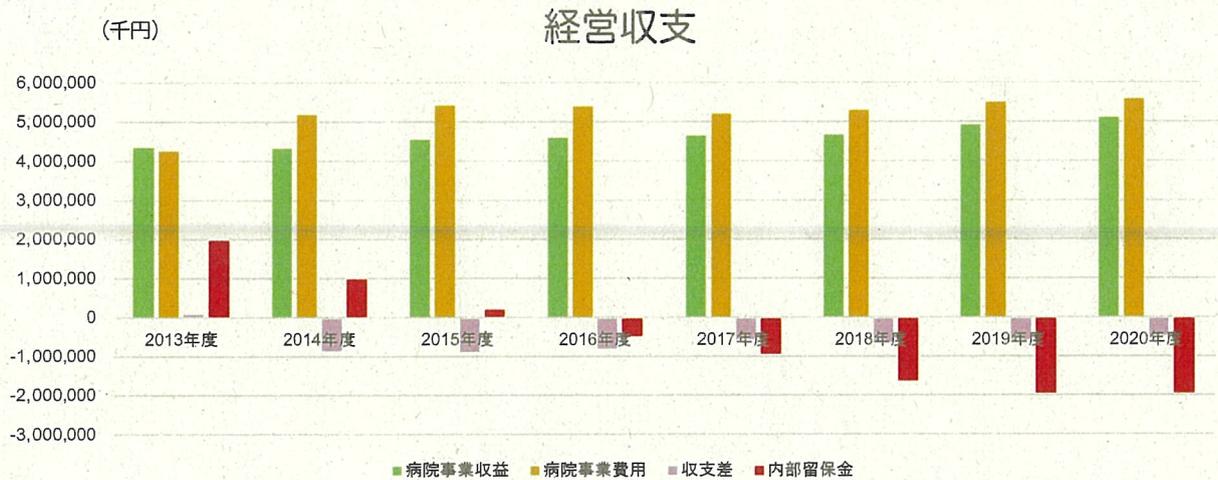


# 経営状況



	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
病院事業収益	4,350,365	4,332,612	4,550,182	4,606,957	4,654,409	4,666,834	4,934,551	5,115,028
病院事業費用	4,265,635	5,188,689	5,418,746	5,397,426	5,209,758	5,300,289	5,509,194	5,583,612
収支差	84,730	-856,077	-868,564	-790,469	-555,349	-633,455	-574,643	-468,585
内部留保金	1,970,779	983,845	208,621	-457,891	-924,984	-1,608,786	-1,933,771	-1,933,771

(単位：千円)



23/24

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

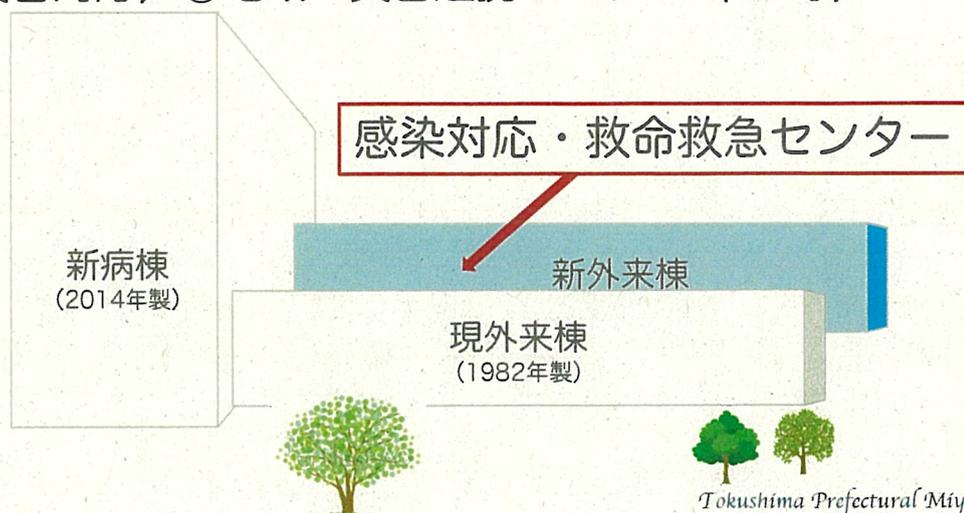
# 感染症対応外来棟

(院長希望案)



## ● コンセプト

- ①患者のプライバシー保護、②一般外来の動線改善、③感染症外来新設と動線の分離、④感染対応救命救急センター・HCUスペース、⑤電源・カルテシステムの保全（自然災害対応）⑥地域・災害連携システム（5G等）

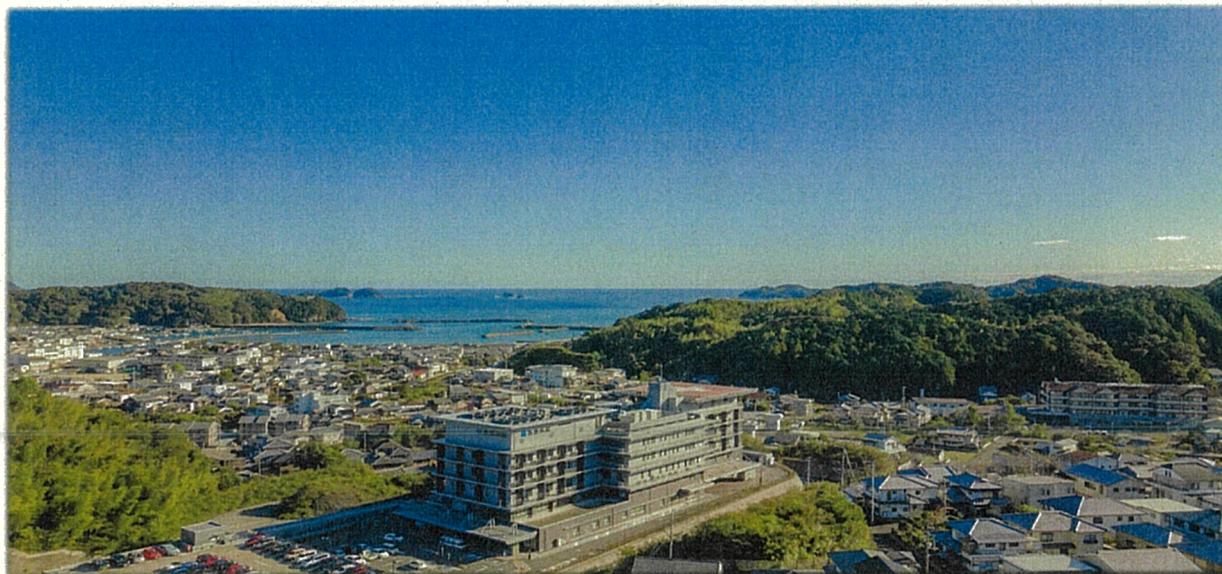


24/24

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

令和4年2月28日 県立病院をよくする会

## ～徳島県立海部病院の取組について～



コロナ禍モード  
へ移行

当院の  
対応

県のホームページの  
トップでも「新型コロナ  
ナ」の関係情報が公開  
されている。

「**新型コロナ**」と「**救急医療**」を  
主に**病院運営**を実施。

# 新型コロナウイルス感染症への対応状況

・感染症指定医療機関として、県医師会等関係機関と連携して新型コロナウイルス患者を受け入れる。

## 来院者

- ・発熱患者は、夜間専用出入口のインターホンで対応
- ・警備員又は看護師が検温及び問診を実施  
(R2.8 AI検温モニタリングシステム導入)
- ・3月上旬から電話再診、処方箋のFAX送付を実施

## 面会

- ・面会禁止（制限）・面会は病院からの依頼、荷物持参の家族等に限る
- ・入館受付表の記載、面会者証の発行
- ・館内放送の実施

## 患者 受入対応

- ・病棟のゾーン設定
- ・R2.8～9 HEPAフィルター付き空気清浄機の設置（一般病棟一部）
- ・患者連絡用のテレビ電話（iPad）を配置
- ・防護服等の脱着訓練、感染防止対策研修会の実施
- ・空室の医師公舎を修繕し、職員の宿泊所として対応

▶「感染管理認定看護師」1名配置

▶「院内感染対策チーム」  
で院内ラウンド等の感染対策を実行

▶「院内感染防止対策委員会」  
で必要事項を協議

## その他 感染対策

- ・マスク着用、手指消毒の徹底、ワクチンの接種（全希望職員接種済）
- ・職員及び委託業者の体温記録簿の作成、全入院患者の入院時検査実施
- ・外来受付等にビニールカーテンを設置
- ・外来患者が間隔を空けて座るように張り紙を貼付
- ・環境衛生クロスで機器等の拭き取り、換気の実施



AI検温モニタリングシステム

# 海部病院の役割・機能

・先端災害医療の拠点として南海トラフ巨大地震を迎え撃つ前線基地

・地域医療を担う総合診療医の育成道場

・海部・那賀地域公立医療機関に対する医師派遣の拠点



## 1 災害医療・救急医療

### 災害医療

新病院の設備（ハード）

- ・ツインヘリポートを設置し，平常時と災害時にシームレスに医療提供
- ・太陽光発電，蓄電池，自家発電装置等を整備



災害への体制整備（ソフト）

- ・DMAT3チーム14名を養成  
(R3：4チーム18名)
- ・災害訓練の実施や参加



令和元年度大規模地震時  
医療活動訓練（2019.9.7）



令和元年度徳島県総合  
防災訓練（2019.9.1）

## 少人数の医療スタッフで、24時間365日対応

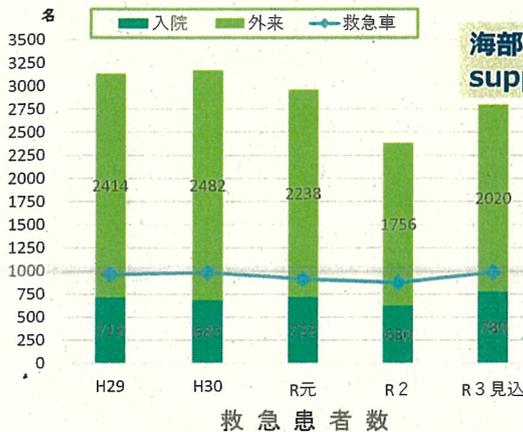
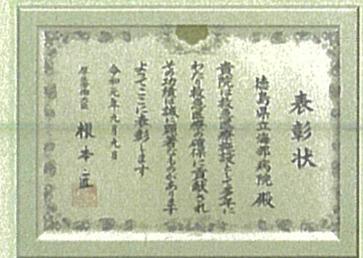


・令和2年度 救急患者数 ( ) 前年度比  
 2,386名 (▲574名)  
 入院 630名 (▲93名)  
 外来 1,756名 (▲481名)  
 救急車搬送患者数  
 874名 (▲39名)  
 ドクターヘリ搬送件数  
 34件 ( 14件)

全国23名15団体のうちの1つとして

令和元年度救急医療功労者の  
**厚生労働大臣表彰**を受賞!

令和元年9月9日 表彰式



海部・那賀地域遠隔診療支援システム (k-support) による診療支援

海部消防組合  
 搬送件数の約56%

室戸市消防署東洋出張所  
 搬送件数の約81%

## 2 総合診療医の育成道場

### 地域医療研究センター

目的：地域医療に貢献できる総合的な医療人材の育成  
 徳島大学と徳島県が共同で、海部病院内に開設 (H19.10)  
 新病院移転時に、研修室・宿泊施設等の環境を整備

- ▶ 徳島大学総合診療部と連携し、専攻医を受入れ 累計10名
  - ・南阿波総合医・家庭医育成プログラム (H23開始)
  - ・南阿波総合診療専門医研修プログラム (H31開始)
- ▶ 徳島大学医学部地域医療実習生 毎年約100名受入れ



コロナで休止中

- ▶ 臨床研修医 令和2年度 16名受入れ (県立中央病院・徳島大学病院等の協力型臨床研修病院)

現在 内科・総合診療科の正規職員は、若手医師 (自治医卒・地域卒) のみ  
 ⇒ **安定的な指導医の確保**を目指す

### 3 海部・那賀モデル

- **医師の応援診療**：上那賀病院、美波病院、海南病院への医師の応援診療
- **ICTの活用によるネットワーク構築**
  - ・海部・那賀地域遠隔診療支援システム（k-support）による診療支援
  - ・地域医療連携システム（Human Bridge）による医療連携
  - ・テレビ会議システムによる症例検討や研修会の実施
- **研修会の開催**（看護師、リハビリ等）
- **共同購入**（診療材料 16品目）
- **看護師の応援**：看護師不足の上那賀病院へ看護師派遣（R1）



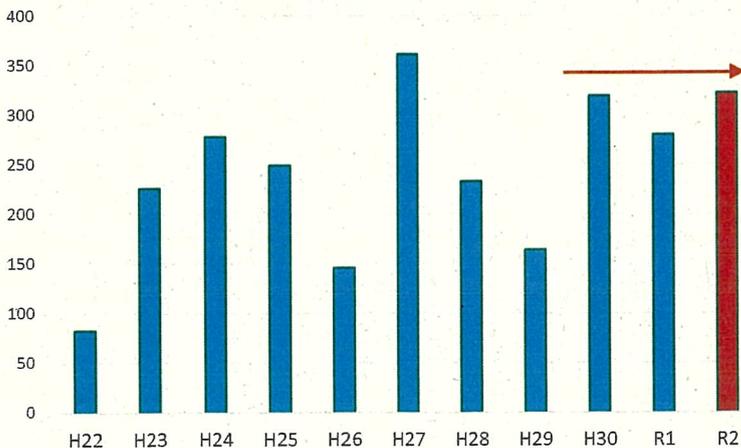
### 4 在宅医療の推進

海部地域には、療養型の病床が皆無だったことから、平成21年度から「訪問看護」、平成22年度からは「訪問診療」、「訪問リハ」（各医療保険）を開始し、**末期がん患者等への在宅医療**を積極的に取り組んでいる。今後は、「心不全」患者への対応も推進。

訪問件数は当初増加傾向であったが、海部郡全域を網羅するには、訪問に距離的に時間を要するケースもあり、マンパワーの面からも、ここ数年は横ばいで推移。



在宅医療利用件数



在宅看取り件数



公的病院としては先進的な取り組み

地域の医療ニーズに的確に対応

# 海部郡の在宅療養連携の推進

平成30年7月17日

『在宅看取り・在宅療養連携推進協定』の締結

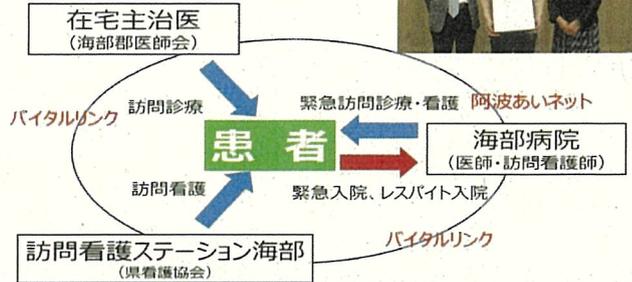
海部郡医師会・徳島県看護協会・海部病院との連携による在宅医療の推進



海部病院がバックアップ病院として在宅看取りを推進

海部郡の在宅療養患者の安心・安全のために  
当院が医師会かかりつけ医と訪問看護ステーションを支援

⇒ 当院から緊急訪問診療・看護  
**必要時は当院へ緊急入院**



在宅連携実績	H30年度 (8~3月)	R元年度	R2年度
連携患者数	16名	25名	26名
他医療機関からの紹介	12名	10名	7名
海部病院からの逆紹介	4名	3名	4名

今後更なる連携の拡大を目指す!!

## 5 地域包括ケア病棟の導入

コロナで休止中

「地域医療構想」に基づき県南で不足する「回復期機能病床」の導入

### 地域包括ケア病棟とは

急性期治療を終了後に、在宅復帰に向けたリハビリの必要な患者が、住み慣れた在宅や施設で長く生活する事を応援する病棟。

海部地域の課題：海部郡内に回復機能病床なし

これまでは、長期的なリハビリが必要な患者は、郡内にリハビリ施設がないために、県中央部の医療機関に転院せざるを得なかった。これは、患者や家族にとって、大きな精神的・経済的負担であった。

平成29年2月 一般病棟内に地域包括ケア病床（10床）を導入

令和元年7月 4階病棟（52床）を『地域包括ケア病棟』として運用

令和元年度

1日平均入院患者数	72.0名	前年度比+6.6名
入院患者延数	26,348名	前年度比+2,487名
入院収益	10億円	前年度比+1億3千万円

5階（58床）急性期病棟  
4階（52床）急性期病棟  
急性期病棟  
地域包括ケア病棟

整形外科 +2,221名 (+30%)  
脳神経外科 +1,094名 (+51%)

急性期から回復期までシームレスに当院で加療可能となった  
在宅生活復帰に向けて、リハビリ目的の入院が増加し、患者の利便性が向上

在宅復帰を目指す体制を強化

入院患者の増加

健全な病院運営



# 6 5G回線と4K画像による遠隔診療の充実強化

実験から本格稼働へ

「キャリア5G」&「ローカル5G」の2回線を整備

## 遠隔糖尿病外来

平成30年12月開始

電子カルテ・テレビ会議システムを用いた遠隔診療を実施（現在は、5G+4K映像へ移行）  
（遠隔診療 月2回）

中央病院側



海部病院

電子カルテの連携と鮮明な映像により、対面診療に近い環境を実現

## 形成外科外来

令和3年8月開始（試行中）

電子カルテ・ドコモ5G回線と4K映像を用いた遠隔診療を実施  
（遠隔診療 月2回）

中央病院側



海部病院

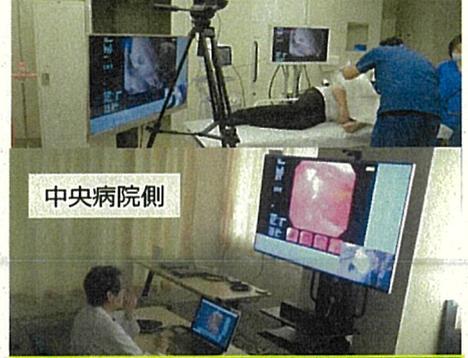
海部病院側にも若手医師を配置

## 内視鏡支援

救急症例に対し実施中

緊急時にドコモ5G回線と内視鏡システムを接続し、遠隔診療支援を実施（遠隔支援 随時）

海部病院



中央病院側

若手医師を専門医がサポート

他の診療科、エコ-救急等への利用拡大へ向けて研究中。また、徳島医療コンソーシアムとの連携に向けても協議中

# 7 住民のニーズに対応した専門外来の充実

医師不足のなか、徳島大学病院、県立中央病院、その他の医療機関等に支援をいただき、地域住民の方々が、地元で専門的な治療が受けられるよう、体制整備を行っております。

呼吸器内科

坂東弘康 名誉院長

循環器内科

ペースメーカー外来

折野俊介 医師

膠原病外来

徳島大学 谷 医師

リウマチ科

四宮文男 医師

糖尿病外来

（5G遠隔診療）

中央病院 白神医師

神経内科

徳島大学 大崎医師

腎臓内科

CAPDチューブ交換

水口潤 医師

心臓血管外科

下肢静脈瘤血管結紮術

大学病院 北市医師

菅野医師

形成外科

（5G遠隔診療）

徳島大学 美馬医師

甲状腺外科

山崎眞一 医師

呼吸器外科

中央病院 住友医師

皮膚科

中央病院 山村医師

泌尿器科

中央病院 稲井医師

ほか

耳鼻咽喉科

徳島大学 医師

中央病院 医師

もの忘れ外来

海部病院 影治医師

寄付講座 岡 医師

# 患者数の推移

入院・外来とも患者数は、直近20年間で最低となった。

## 入院

1日平均入院患者数



令和2年度実績 ( ) 前年度比

患者延数 18,459名 (▲7,889名, ▲29.9%)  
 1日平均患者数 50.6名 (▲21.4名)  
 病棟の運営方針の変更による。  
 ※ R2～新型コロナ(病棟化)の影響で著しく減少

## 外来

1日平均外来患者数



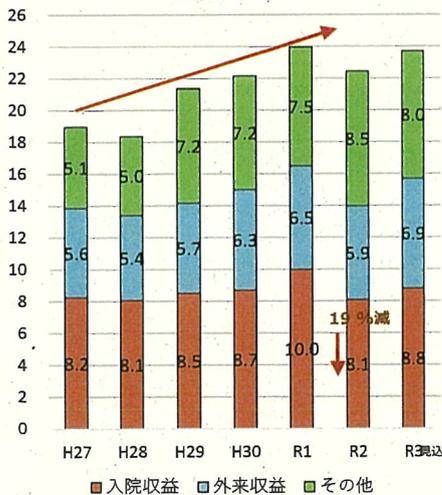
令和2年度実績 ( ) 前年度比

患者延数 42,004名 (▲2,435名, ▲5.5%)  
 1日平均患者数 172.9名 (▲12.3名)  
 過疎化、地域連携による逆紹介等により、年々減少傾向  
 ※ R2～新型コロナの影響で減少

# 経営状況

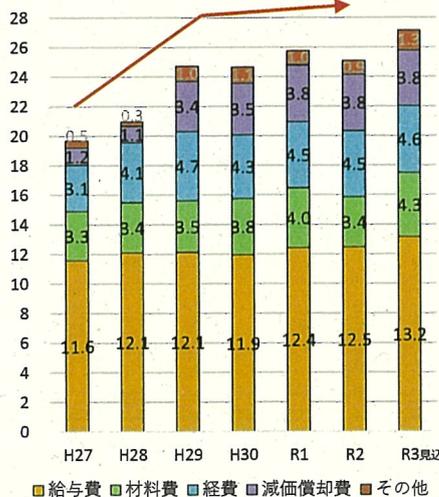
(単位：億円)

経常収益



R2年度は、入院患者数の減少により、入院収益が大幅減となった。

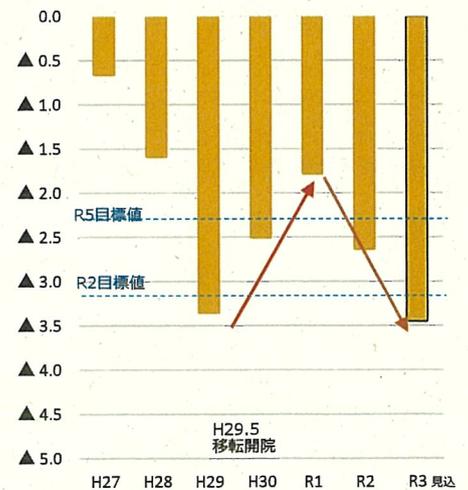
経常費用



R2年度は、外来の在宅薬剤（注射）の減少により、材料費が大幅減となった。

(単位：億円)

経常収支



R2年度は、新型コロナ感染拡大に伴う患者の減少により、経常収支が大幅に悪化した。

※ 空床確保料（特別利益）は別途、事業収益・事業収支に含まれる

救急医療

理念

キャッチコピー

地域に寄り添い  
愛される病院  
になる

チームであなた  
を全力サポート

急性期・  
回復期医療

在宅医療



災害医療

人材育成



県立病院基本理念  
県民に支えられた病院として、県民医療の最後の砦となる

徳島県立海部病院

## 公立病院経営強化プラン策定に向けて

### 1 国の動き

令和3年12月中旬

総務省の「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化に関する検討会」の中間取りまとめ（案）が打ち出される。

- ・ 総務省は令和3年度末までに「ガイドライン」策定
- ・ 各自治体は令和4年度または令和5年度中に策定し、計画期間は令和9年度まで

### 2 中間取りまとめ（案）での経営強化のための必要な取組ポイント

#### （1）機能分化・連携強化の推進

- ・ 地域の中での公立病院が担うべき役割や機能の明確化

#### ★（2）医師・看護師等の確保、働き方改革の推進

- ・ 医師の時間外労働規制が開始される令和6年度に向けての明記

#### ★（3）新興感染症に備えた平時からの対応

- ・ 専門人材の確保・育成
- ・ 感染防護具等の備蓄、院内感染対策の徹底
- ・ クラスタ発生時の対応方針の共有
- ・ 個室化、動線分離、陰圧装置等について平時からの整備
- ・ 施設の改修にあたり新興感染症発生時に果たすべき役割を整備

#### ★（4）デジタル化

- ・ マイナンバーカード保険証利用、遠隔診療、オンライン診療等
- ・ 情報セキュリティ対策の明記

### 3 今後のスケジュール

令和4年度

4月	経営計画策定プロジェクトチームを設置
5月	経営計画原案・骨子作成
7月～8月	病院局経営戦略会議に素案提示
7月～8月	県立病院を良くする会に素案提示
11月	県議会文教厚生委員会に素案報告
12月	パブリックコメント公募
1月	病院局経営戦略会議に原案提示
2月	県議会文教厚生委員会に原案報告